

2005年度

免許課程シラバス

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスをよく読み、計画的な履修登録をしてください。

科目の授業内容は、目次で検索してください。目次は対象者別（入学年度により異なる）の、カリキュラム順に掲載されています。

曜日時限も記載されていますが、変更等があるので受講の際は、教務課で確認をしてください。

（ホームページでも確認することができます。）

履修開始学年は、目次の「学年」欄に、「学期」は()内に記載されています。

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的	講義概要	⑤ 授業計画
【春学期】		第1週
		第2週
		第3週
		第4週
		第5週
		第6週
		第7週
		第8週
		第9週
		第10週
		第11週
		第12週
⑥ テキスト 参考文献	⑦ 評価方法	

*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。
※該当科目がない場合は「***」で表示されます。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 半期完結科目は春学期終了時に
および秋学期終了時に成績評価が出ます。

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的	講義概要	⑤ 授業計画
【秋学期】		第1週
		第2週
		第3週
		第4週
		第5週
		第6週
		第7週
		第8週
		第9週
		第10週
		第11週
		第12週
⑥ テキスト 参考文献	⑦ 評価方法	

*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

※免許の履修に際しては、「履修の手引き（免許課程）」および「2005年度時間割表」をご参照ください。

シラバス目次

(2003年度以降入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教職論	春	06902	木	5	川村 肇	2	1(1)		1
	秋	06903	火	2					
	春	06900	月	5	鳥谷部 志乃恵				2
	秋	06901	木	3					
教育原論	春	06906	火	2	川村 肇	2	1(1)		3
	秋	06907	木	5					
	春	06905	木	3	鳥谷部 志乃恵				4
	秋	06904	月	5					
教職心理学	春	06908	木	1	田口 雅徳	2	1(1)		5
	秋	06909	木	1					
	春	06911	土	1	林 潔				6
	秋	06910	火	4					
	春	06912	月	3	横田 雅弘				7
	秋	06913	月	3					
教育制度	春	06914	月	4	吉田 武大	2	2(3)		8
	秋	06915	月	4					
教育課程論	春	06916	金	2	林 尚示	2	2(3)		9
	春	06918	水	2					
	秋	06919	月	3	安井 一郎				10
	春	06920	木	5					
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	春	06920	木	5	金井 満	2	3(5)		11
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	秋	06921	木	5					
英語科教科教育法Ⅰ	春	06923	火	5	浅岡 千利世	2	3(5)		12
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06928	火	5					
英語科教科教育法Ⅰ	春	06924	月	3	清水 由理子	2	3(5)		13
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06929	月	3					
英語科教科教育法Ⅰ	春	06925	木	3	J. J. ダゲン	2	3(5)		14
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06930	木	3					
英語科教科教育法Ⅰ	春	06926	火	5	T. マーフィー	2	3(5)		15
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06931	火	5					
フランス語科教科教育法Ⅰ	春	06932	木	1	中村 公子	2	3(5)		16
フランス語科教科教育法Ⅱ	秋	06933	木	1					
社会科教育法Ⅰ	秋	06934	火	2	秋本 弘章	2	2(3)		17
社会科教育法Ⅱ	春	06935	火	1					
社会科教育法Ⅲ	秋	06936	火	1		2	3(5)		18
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	06939	金	3	久慈 栄志	2	2(3)		19
地理・歴史科教育法Ⅱ	秋	06940	木	1	秋本 弘章	2	3(5)		20
地理・歴史科教育法Ⅲ	春	06941	木	3	新井 孝重	2	3(5)		21
公民科教育法Ⅰ	春	06937	金	4	小川 輝之	2	3(5)		22
公民科教育法Ⅱ	秋	06938	金	4					
情報科教育法Ⅰ	春	06942	木	2	秋本 弘章	2	3(5)		23
情報科教育法Ⅱ	秋	06943	木	2					
教科教育法特論Ⅰ	春	09110	火	3	安井 一郎	2	3(5)		24
	秋	06944	月	5					
教科教育法特論Ⅱ	春	09111	水	1	清水 由理子	2	3(5)		25
	秋	06945	水	1					
道徳教育の研究	春	06947	木	2	鳥谷部 志乃恵	2	2(3)		26
	春	06946	土	1					
	秋	06948	金	4	安井 一郎	2	2(3)		27
	春	06949	火	4					
特別活動	春	06952	金	2	小川 輝之	2	2(3)		28
	春	06953	金	3					
	秋	06950	月	4	安井 一郎	2	2(3)		29
	秋	06951	木	2					

シラバス目次

(2003年度以降入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ		
教育方法学	春	06956	土	2	町田 喜義	2	2(3)		30		
	秋	06957	土	2							
	春	06954	月	3	安井 一郎	2	2(3)			31	
生徒指導法	春	06961	水	3	小川 輝之	2	2(3)		32		
	秋	06960	金	3							
	春	06958	金	4	林 尚示	2	2(3)				
	春	06959	金	3							
学校カウンセリング	秋	06964	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		34		
	春	06962	木	2	瀧本 孝雄	2	2(3)			35	
	秋	06963	土	1	林 潔	2	2(3)			36	
	春	06965	水	1	森川 正大	2	2(3)			37	
総合演習	春	06972	木	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	38		
	春	06973	火	2							
	春	06971	木	5	渋谷 英章	2	3(5)				
	秋	06970	木	4							
	春	06966	木	4	鳥谷部 志乃恵	2	3(5)			"	40
	秋	06967	土	1	安井 一郎	2	3(5)				
	春	06968	月	5							
	秋	06969	水	1							
教育実習論 I (事前指導)	秋	08753	金	2	小川 輝之	2	3(5)		42		
	秋	08754	水	3							
	秋	08751	木	2	鳥谷部 志乃恵	2	3(5)				
	秋	08749	金	5							
	春	08750	月	4	安井 一郎	2	3(5)				
	秋	08752	火	4							
介護ボランティアの理論と実践	春	06997	金	1	川野 祐二	2	2(3)		47		
	秋	09109	金	1							

【教職課程】 -- 教科に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説 I	春	06982	月	4	曾田 康範	2	1(1)		48
日本史概説 II	秋	06983	月	4	曾田 康範	2	1(1)		
外国史概説 I	秋	06984	金	1	兼田 信一郎	2	1(1)		49
外国史概説 II	春	06985	金	3	久慈 栄志	2	1(1)		
地理学概説 I	春	06986	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		51
地理学概説 II	秋	06987	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		
地誌学概説 I	春	06988	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		52
地誌学概説 II	秋	06989	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		
法律学概説 I	春	07023	木	3	内山 良雄	2	2(3)	経・法は履修不可	53
法律学概説 II	秋	07024	木	3	内山 良雄	2	2(3)		
政治学概説 I	春	07025	木	2	杉田 孝夫	2	2(3)	経・法は履修不可	54
政治学概説 II	秋	07026	木	2	杉田 孝夫	2	2(3)		
社会学概説 I	春	07027	火	1	有吉 広介	2	2(3)		55
社会学概説 II	秋	07028	火	1	有吉 広介	2	2(3)		
哲学概説 I	春	07029	火	5	河口 伸	2	2(3)		56
哲学概説 II	秋	07030	火	5	河口 伸	2	2(3)		
倫理学概説 I	春	07031	火	4	鳥谷部 志乃恵	2	2(3)		57
倫理学概説 II	秋	07032	火	4	鳥谷部 志乃恵	2	2(3)		
宗教学概説 I	春	07033	木	5	河口 伸	2	2(3)		58
宗教学概説 II	秋	07034	木	5	河口 伸	2	2(3)		
心理学概説 I	春	07104	木	3	田口 雅徳	2	2(3)		59
心理学概説 II	秋	07105	木	3	田口 雅徳	2	2(3)		

シラバス目次

(2002年度以前入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ				
教職論	春	06902	木	5	川村 肇	2	1(1)		1				
	秋	06903	火	2									
	春	06900	月	5	鳥谷部 志乃恵				2	1(1)		2	
	秋	06901	木	3									
教育原論	春	06906	火	2	川村 肇	2	1(1)		3				
	秋	06907	木	5									
	春	06905	木	3	鳥谷部 志乃恵				2	1(1)		4	
	秋	06904	月	5									
教職心理学	春	06908	木	1	田口 雅徳	2	1(1)		5				
	秋	06909	木	1									
	春	06911	土	1	林 潔				2	1(1)		6	
	秋	06910	火	4									
教育制度	春	06912	月	3	吉田 武大	2	2(3)		8				
	秋	06913	月	3									
	春	06914	月	4									
	秋	06915	月	4									
教育課程論	春	06916	金	2	林 尚示	2	2(3)		9				
	春	06918	水	2	安井 一郎					2	2(3)		10
	秋	06919	月	3									
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	春	06920	木	5	金井 満	2	3(5)		11				
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	秋	06921	木	5		2	3(5)						
英語科教科教育法Ⅰ	春	06923	火	5	浅岡 千利世	2	3(5)		12				
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06928	火	5		2	3(5)						
英語科教科教育法Ⅰ	春	06924	月	3	清水 由理子	2	3(5)		13				
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06929	月	3		2	3(5)						
英語科教科教育法Ⅰ	春	06925	木	3	J. J. ダゲン	2	3(5)		14				
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06930	木	3		2	3(5)						
英語科教科教育法Ⅰ	春	06926	火	5	T. マーフィー	2	3(5)		15				
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06931	火	5		2	3(5)						
フランス語科教科教育法Ⅰ	春	06932	木	1	中村 公子	2	3(5)		16				
フランス語科教科教育法Ⅱ	秋	06933	木	1		2	3(5)						
社会科教育法Ⅰ	秋	06934	火	2	秋本 弘章	2	2(3)		17				
社会科教育法Ⅱ	春	06935	火	1		2	3(5)						
社会科教育法Ⅲ	秋	06936	火	1		2	3(5)						
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	06939	金	3	久慈 栄志	2	2(3)		19				
地理・歴史科教育法Ⅱ	秋	06940	木	1	秋本 弘章	2	3(5)		20				
地理・歴史科教育法Ⅲ	春	06941	木	3	新井 孝重	2	3(5)		21				
公民科教育法Ⅰ	春	06937	金	4	小川 輝之	2	3(5)		22				
公民科教育法Ⅱ	秋	06938	金	4		2	3(5)						
情報科教育法Ⅰ	春	06942	木	2	秋本 弘章	2	3(5)		23				
情報科教育法Ⅱ	秋	06943	木	2		2	3(5)						
教科教育法特論Ⅰ	春	09110	火	3	安井 一郎	2	3(5)	カリキュラム外	24				
	秋	06944	月	5									
教科教育法特論Ⅱ	春	09111	水	1	清水 由理子	2	3(5)	カリキュラム外	25				
	秋	06945	水	1									
道徳教育の研究	春	06947	木	2	鳥谷部 志乃恵	2	2(3)		26				
	春	06946	土	1									
	秋	06948	金	4									
	春	06949	火	4									
特別活動	春	06952	金	2	小川 輝之	2	2(3)		28				
	春	06953	金	3									
	秋	06950	月	4	安井 一郎				2	2(3)		29	
	秋	06951	木	2									

シラバス目次

(2002年度以前入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教育方法学	春	06956	土	2	町田 喜義	2	2(3)		30
	秋	06957	土	2					
	春	06954	月	3	安井 一郎	2	2(3)		
生徒指導法	春	06961	水	3	小川 輝之	2	2(3)		32
	秋	06960	金	3					
	春	06958	金	4	林 尚示	2	2(3)		
	春	06959	金	3					
学校カウンセリング	秋	06964	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		34
	春	06962	木	2	瀧本 孝雄	2	2(3)		
	秋	06963	土	1	林 潔	2	2(3)		
	春	06965	水	1	森川 正大	2	2(3)		
総合演習	春	06972	木	1	秋本 弘章	2	3(5)		38
	春	06973	火	2					
	春	06971	木	5	渋谷 英章	2	3(5)		
	秋	06970	木	4					
	春	06966	木	4	鳥谷部 志乃恵	2	3(5)		
	秋	06967	土	1					
	春	06968	月	5	安井 一郎	2	3(5)		
	秋	06969	水	1					
教育実習論(事前・事後指導)	秋	06979	水	3	小川 輝之	2	3(5)		42
	秋	06978	金	2					
	秋	06976	木	2	鳥谷部 志乃恵	2	3(5)		
	秋	06974	金	5					
	春	06975	月	4	安井 一郎	2	3(5)		
	秋	06977	火	4					
教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	09113	木	4	鳥谷部 志乃恵	2	4(8)	カリキュラム外科目	45
	秋	06981	金	3					
	秋	06980	火	3	安井 一郎	2	4(8)		
	秋	09112	水	2					
介護ボランティアの理論と実践	春	06997	金	1	川野 祐二	2	2(3)	カリキュラム外科目	47
	秋	09109	金	1					

【教職課程】 -- 教科に関する科目 --

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	06982	月	4	會田 康範	2	1(1)		48
日本史概説Ⅱ	秋	06983	月	4		2	1(1)		
外国史概説Ⅰ	秋	06984	金	1	兼田 信一郎	2	1(1)		49
外国史概説Ⅱ	春	06985	金	3	久慈 栄志	2	1(1)		50
地理学概説Ⅰ	春	06986	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		51
地理学概説Ⅱ	秋	06987	月	2		2	1(1)		
地誌学概説Ⅰ	春	06988	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		52
地誌学概説Ⅱ	秋	06989	水	1		2	1(1)		
法律学概説	通	06990	木	3	内山 良雄	4	2(3)	経・法は履修不可	53
政治学概説	通	06991	木	2	杉田 孝夫	4	2(3)	経・法は履修不可	54
社会学概説	通	06992	火	1	有吉 広介	4	2(3)		55
哲学概説	通	06993	火	5	河口 伸	4	2(3)		56
倫理学概説	通	06994	火	4	鳥谷部 志乃恵	4	2(3)		57
宗教学概説	通	06995	木	5	河口 伸	4	2(3)		58
心理学概説	通	06996	木	3	田口 雅徳	4	2(3)		59

【カリキュラム外科目】

2003年度以降入学者適用の科目ですが、免許法の一部改正により、2002年度以前入学の学生についても選択科目として履修することが望ましい科目です。

シラバス目次

(2003年度以降入学者適用科目)

【司書課程】

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
生涯学習概論	秋	06998	木	5	渋谷 英章	2	2(3)		60
図書館概論	春	06999	金	3	井上 靖代	2	2(3)		61
図書館サービス論	春	07035	土	2	井上 靖代	2	2(3)		62
図書館経営論	秋	07036	土	2	常世田 良	2	2(3)		62
情報サービス論a	春	08747	月	2	福田 求	2	3(5)	受講定員あり	63
情報サービス論b	秋	08784	月	2		2	3(5)	"	
情報サービス論a	春	08830	月	3	福田 求	2	3(5)	受講定員あり	
情報サービス論b	秋	08831	月	3		2	3(5)	"	
情報検索演習	春	07003	金	1	高柳 敏子	2	3(5)	受講定員あり	64
	春	07004	火	4	福田 求				65
	春	07005	火	3					
図書館資料論	秋	07006	金	5	山本 順一	2	2(3)		66
専門資料論	春	07007	金	4	松下 鈞	2	2(3)		67
資料組織概説	春	07008	金	3	松下 鈞	2	3(5)		68
資料組織演習	秋	07009	金	3	松下 鈞	2	3(5)		68
	秋	07010	金	4	松下 鈞	2	3(5)		
児童サービス論	春	07011	金	1	井上 靖代	2	2(3)		69
図書及び図書館史	秋	07012	金	4	山本 順一	2	2(3)		70
資料特論	春	07015	水	1	千葉 治	2	3(5)		71
コミュニケーション論	春	07013	土	1	町田 喜義	2	2(3)		72
図書館特論	秋	07014	水	1	千葉 治	2	3(5)		73

(2002年度以前入学者適用科目)

【司書課程】

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
生涯学習概論	秋	06998	木	5	渋谷 英章	2	2(3)		60
図書館概論	春	06999	金	3	井上 靖代	2	2(3)		61
図書館サービス経営論	通	07000	土	2	(春)井上 靖代 (秋)常世田 良	4	2(3)		62
情報サービス論	通	07001	月	2	福田 求	4	3(5)	受講定員あり	63
	通	07002	月	3					
情報検索演習	春	07003	金	1	高柳 敏子	2	3(5)	受講定員あり	64
	春	07004	火	4	福田 求				65
	春	07005	火	3					
図書館資料論	秋	07006	金	5	山本 順一	2	2(3)		66
専門資料論	春	07007	金	4	松下 鈞	2	2(3)		67
資料組織概説	春	07008	金	3	松下 鈞	2	3(5)		68
資料組織演習	秋	07009	金	3	松下 鈞	2	3(5)		68
	秋	07010	金	4					
児童サービス論	春	07011	金	1	井上 靖代	2	2(3)		69
図書及び図書館史	秋	07012	金	4	山本 順一	2	2(3)		70
資料特論	春	07015	水	1	千葉 治	2	3(5)		71
コミュニケーション論	春	07013	土	1	町田 喜義	2	2(3)		72
図書館特論	秋	07014	水	1	千葉 治	2	3(5)		73

※受講定員のある科目は、抽選となりますので登録の際は必ず抽選結果を確認してください。

シラバス目次

(全学生共通)

【司書教諭課程】

科目名	学期	時間割 コード	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
学校経営と学校図書館	春	07016	木	1	井上 靖代	2	2(3)		74
学校図書館メディアの構成	春	07017	木	4	井上 靖代	2	2(3)		75
学習指導と学校図書館	春	07018	木	3	井上 靖代	2	2(3)		76
読書と豊かな人間性	春	07020	水	3	井上 靖代	2	2(3)		77
情報メディアの活用	秋	07021	火	3	福田 求	2	2(3)	受講定員あり	78
	秋	07022	火	4					

※受講定員のある科目は、抽選となりますので登録の際は必ず抽選結果を確認してください。

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教 職 論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の目標】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とする。</p> <p>【授業の概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議する。 2. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、今後の学習につなげていく道筋を理解していく。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求める。</p> <p>【参加者に対する要望など】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けること。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由 2 学級崩壊を考える(実態把握)／宿題：学級崩壊への対処について 3 学級崩壊を考える(グループ討論) 4 学級崩壊を考える(グループ討論の発表)／宿題：少年法改正について 5 ADHDを考える(実態把握)／宿題：ADHDから学ぶこと・体罰について(その1) 6 体罰を考える(グループ討論) 7 体罰を考える(体罰に関する理論的問題) 8 体罰を考える(実態把握)／宿題：体罰について(その2) 9 いじめを考える(実態把握)／宿題：いじめへの対処について 10 いじめを考える(グループ討論) 11 いじめを考える(対処について) 12 現代社会と教育問題について 	
テキスト、参考文献		評価方法	
期末レポートによる。数回の小レポートを加味する。		配布プリント類による／参考文献は適宜紹介する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教 職 論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教職論	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 教職課程履修の入門科目であるため、教職に就くために必要不可欠な知識や技術は何であるのかと言う事の学習を通じて、教職の意義を明らかにし、併せて子供と学校を取り巻く状況分析を試みる中で、今日のわが国の教育が抱える問題を明らかにする。</p> <p>【講義概要】 教師に求められる資質・能力や職務内容に対応するための実践的指導力について理解し、教員養成の抱える新たな課題と教員採用の実態や待遇・研修等について学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職とは何か。今後、教職課程で学習する内容について。今日の日本の社会が抱える子供の教育課題。 2. 変化する社会と子供の生活(遊びと学習) 3. 子供と学校の抱える問題(学校の管理運営) 4. 教師の仕事(学習指導) 5. 学習指導の考え方と方法 (学習指導要領と総合的な学習の時間の課題) 6. 生徒指導と生徒理解(教育相談・進路指導) 7. 学級と学級経営(特別活動と道徳教育) 8. 教師に求められる資質・能力 (何が求められてきたのか) 9. 教師に求められる資質・能力 (いま何が求められているのか) 10. 生徒と教師(学ぶことと教えること) 11. 教員の養成と採用 (教員養成の制度と採用の仕組み・採用選考の改革) 12. 教員の地位と身分(待遇・勤務条件・研修) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教職入門』吉田辰雄 大森正 編著 (図書文化)		学習内容の区切りごとに提出する小レポートと期末レポートの総合評価による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教職論	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育原論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の目標】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養う。</p> <p>【授業の概要】 1. 子どもの権利条約や教育基本法等を素材にして、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学ぶ。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていく。</p> <p>【参加者への要望等】 ・ほぼ毎回、感想文を書くこと、資料を読むことを求め、学生間の討論を予定している。また、ビデオ等の教材提示があるので、遅刻や欠席は避けること。 ・法的小よび歴史的な理解には、特に力を入れてほしい。 ・提示された参考文献(ブックレット)を読み進めておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方の説明/「学力論争」をどう考えるか 2 総合的な学習の時間と戦後教育の歴史(その1) 3 総合的な学習の時間と戦後教育の歴史(その2) 4 学力問題の国際比較(学力調査について) / 小テスト実施予定 5 学力問題の国際比較(ドイツの事例) 6 学力問題の国際比較(フィンランドの事例) 7 系統学習と問題解決学習について 8 能力を考える(教育基本法第3条) 9 教育における競争と自由の問題を考える 10 子どもの権利条約の精神(保護と参加/3つのP) 11 子どもに固有の権利と人権との関係 12 子どもとはどういう存在か (系統発達と子どもの発見) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>期末試験に、感想文や小レポートの提出、小テストの点数等を加味する。</p>		『ポケット版 子どもの権利ノート』(300円) / 参考文献は適宜紹介する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教育原論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育原論	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 動物の飼育や植物の栽培と異なる人間の教育の本質と目的について考察を加え、理解を深めることで、人間の教育の本質と可能性についての基本概念を学ぶ。教育実践を規定する、社会・文化・歴史・人間観などについての思想史的な考察を手懸りとして、教育の理念・目的・目標などについて吟味し、目的意識と教育実践の本質的な関係についての理解を深める。</p> <p>【講義概要】 次の事項について講義する。 教育の概念と基本的構造 現代社会における教育目的の構造 教育観の基点としての子供観 人間観・社会観・文化観・歴史観とのかかわり の中での教育観の展開</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育を不可欠とする人間の基本的特性 2. 教育作用と教育的人間関係の基本 3. ライフサイクルにおける人間形成の諸相 4. 素質説・遺伝説における教育の可能性 5. 経験説・環境説における教育の可能性 6. 相互作用説から見た教育の可能性と限界 7. 教育目的を規定する基本概念について 8. 教育目的の諸要因(社会・文化・子供) 9. わが国の教育目的の変遷 10. 今日学校教育の目的と課題の分析 11. 教育実践における目的意識の役割と意味 12. 人類社会の存続と教育の相互作用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育と教育観』原聡介他共著 文教書院		2回のレポートと定期試験の成績の総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教育原論	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教職心理学	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。こうした状況の中で、教育心理学においてこれまで得られてきた知見が、学校教育における子どもの理解や指導にどのように役立つのかを受講者と共に考えていきたい。</p> <p>本講義の授業概要は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職心理学とはなにか? 2. 教育評価と学力問題 3. 学習意欲と動機付け 4. 障害の理解と対応 		<p>以下のような計画で授業を進める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学とは何か? 2. 教育測定と教育評価 3. 教育評価の意義と役割 4. 教育評価の方法① 5. 教育評価の方法② 6. 学力とはなにか? 7. 学習における動機付け 8. 学習意欲と原因帰属理論 9. 学習意欲と目標理論 10. 学習意欲と教師の役割 11. 障害の理解と対応① 12. 障害の理解と対応② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>出席と学期末の試験により、総合的に評価をおこなう。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教職心理学	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教職心理学	担当者	林 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校教育の場面で役立つ心理学の基礎について解説します。</p> <p>他の学問と同様に心理学にもいろいろな立場があります。この授業では心理学の基礎的な考え方から、出来事理解の方法について説明します。</p> <p>授業という知識の伝達の間でも、生徒の気持ちの問題を考えないわけにはいきません。答えが分かっても手をあげない生徒もいます。また生徒は過去に経験したことと現在をダブらせて受け止めるということもあります。いろいろな思いを持ってここにいます。</p> <p>生徒のさまざまな問題についての取り組み方について、考えてみましょう。</p> <p>質問歓迎です。メールも利用してください。 hayashi@shiraume.ac.jp</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育における心理学の役割 2. 行動をどう理解するか(行動主義) 行動は経験によってつくられる。 3. 同 (認知論) ものの見方を手掛かりとして 4. 同 (精神分析1) 自分の気づかない世界に目を向ける 5. 同 (精神分析2) 適応と防衛 6. 同 (交流分析) エゴグラムと人間関係 7. 集団と個人(1) リーダーとしての教師 8. 同 (2) PM理論について 9. 心理教育(psychoeducation) カウンセリングの予防、開発的役割 10. 不登校をめぐって 11. 学習技能(Study Skills)の訓練 12. 教育心理学の動向 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時、紹介します		出席・小レポート・期末試験による	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教職心理学	担当者	横田雅弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の第一の狙いは、教師としての自分自身を知ることである。特に初等・中等教育の教師は子供たちと全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師として、あるいは人間としてどのような特性をもっているのか、どのような教師になりたいと思っているのか、そのために自分のどこを活かし、どこをより伸ばしていかなければならないかを知っていることが大切である。授業はこの自分理解の手助けを行う。第二の狙いは、実際に教職についてときに役立つ心理学の実践的知識を身につけることである。ただし、教職で必要となる心理学の知識を半年間で網羅することは不可能である。むしろ、単に知識を暗記するのではなく、それらの知識を通して教職という仕事についての自分なりの考え方を確立してほしい。授業は、教職に関する心理学の講義の他に、心理テストとそれを理解するための交流分析の理論講義とディスカッションが中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 心理テスト TPI の記入 3 発達と教育 (1) : 発達観と教育、認知的発達 4 発達と教育 (2) : 道徳性の発達、知能の発達と創造性 <自分の発達観と教育観を知る> 5 人間関係と社会性の発達: 親・友達・教師と子供、青年期のアイデンティティ <自分のアイデンティティ> 6 学習理論、動機づけ理論、創造性: 理論紹介 <自分の動機づけの傾向について考える> 7 交流分析の講義と自己分析 (1) 8 交流分析の講義と自己分析 (2) 9 ディスカッション=教師としての自分の強みと弱みの自己分析、教師の自己表現について 10 学校不応答と精神衛生 : 不応答に関する心理的メカニズム 11 カウンセリングの基礎知識 (1) 12 カウンセリングの基礎知識 (2) 13 小テスト実施およびレポート (A4 ワープロ 2枚) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>パワーポイントの資料は全てプリントとして配布する。その他の参考文献は適宜授業中に紹介する。</p>		<p>小テストとレポートを中心に出席を加味して総合的に評価する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育制度	担当者	吉田 武大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 教職課程の入門科目として、学校を中心とした教育をめぐる諸問題について、とくに教育制度の側面から理解を深めることを目標とする。</p> <p>【講義概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公教育制度がどのように形成されてきたのかを理解するために、その歴史的展開について学習する。 2. 現代日本の教育制度について、教育行政、学校組織などを中心に学習していく。 3. 諸外国の教育制度の動向を適宜取り上げながら、現代日本の教育制度が抱える諸問題を明らかにする。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育制度の役割 2. 諸外国の公教育制度の形成 3. 日本の公教育制度の形成 4. 公教育の原理 5. 教育基本法体制と教育行政 6. 学習指導要領と教育課程 7. 学校経営 8. 学級経営 9. 教員養成制度 10. 教員の業務と研修 11. 教育制度をめぐる諸問題 1 12. 教育制度をめぐる諸問題 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類による		期末の試験による	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教育制度	担当者	吉田 武大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育課程論	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>学校教育において、生徒の学級や学校生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が直面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する学級活動を行うための教育の内容と方法を探る。</p> <p>講義概要</p> <p>学習指導を中心に教室を運営するには、教育目標、指導内容、教授方法、授業評価などを統合的に把握し、計画し準備する必要がある。各教科教育における問題解決的な学習など、生徒の興味や関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるような授業計画および内容等について学ぶ。</p>		<p>全12回の授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の基本原理 2 学習指導要領 3 教育課程と学習内容 4 新しいカリキュラム 5 カリキュラム開発 6 学習指導の原理 7 学習指導の形態 8 授業づくり 9 教育工学 10 授業分析 11 教育評価 12 これからの教育実践 	
テキスト、参考文献		評価方法	
樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』学事出版、2002年。		出席状況、春学期定期試験による総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 教育課程の構造と類型 4 教育課程編成の理論と方法 5 学習指導要領と教育課程(1) 6 学習指導要領と教育課程(2) 7 学習指導要領と教育課程(3) 8 新教育課程の検討 9 総合学習の可能性 10 教育課程の評価 11 教育課程研究の今日的課題(1) 12 教育課程研究の今日的課題(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』 その他は、講義の中で紹介する</p>		出席、レポート、試験による総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語教授法の体系的なものを取り上げ、基礎的な知識を獲得すると同時に、基礎的なドイツ語の知識の再確認をすることを目的とする。</p> <p>前半では、受講生にそれぞれ代表的な教授法を調べ、発表をしてもらう。</p> <p>後半は、基礎的な文法事項を中心に、実習方式でそれぞれ再確認をしてもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 代表的教授法の発表 3. 代表的教授法の発表 4. 代表的教授法の発表 5. ドイツ語基礎知識の確認 6. ドイツ語基礎知識の確認 7. ドイツ語基礎知識の確認 8. ドイツ語基礎知識の確認 9. ドイツ語基礎知識の確認 10. ドイツ語基礎知識の確認 11. " 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する		期末試験と出席状況、授業への参加度	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教授法Ⅰを踏まえて、一般的に用いられる文法読本を教材として模擬授業を行う。併せて指導案作成の仕方にもふれていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 模擬授業による教授法の研究 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する		出席状況、授業への参加度、レポート	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語科教科教育法 I	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course presents theoretical and practical issues of language learning and teaching from the general perspective as well as from the perspective of Japanese contexts.</p> <p>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</p> <p>This class will be partially team-taught by Tim Murphey and me.</p>		<p>1: Introduction to course</p> <p>2: Teaching English as a foreign language</p> <p>3: Approaches and methods</p> <p>4: Syllabus and teaching guidelines</p> <p>5: Textbooks</p> <p>6: Classroom management & lesson planning</p> <p>7: Team-teaching</p> <p>8: Testing</p> <p>9: Evaluation</p> <p>10: Early education</p> <p>11: Teaching global issues</p> <p>12: Wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts and 講義支援システム		Your grade will be based on journals, in-class work (attendance, participation, speech etc.), lesson plans and a final exam.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語科教科教育法 II	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教科教育法 I をふまえた上で言語の 4 技能の実践的指導方法を学び、模擬授業や討論を中心に進める。模擬授業は全員がそれぞれ 2 回行い、ビデオで録画する。録画ビデオを用いて教員との復習セッション(授業外)や自己評価を行なう。</p>		<p>1. Introduction to course</p> <p>2. Classroom language</p> <p>3. Model lesson in English</p> <p>4. Lesson planning</p> <p>5. Micro-teaching I</p> <p>6. Micro-teaching I</p> <p>7. Micro-teaching I</p> <p>8. Feedback session</p> <p>9. Micro-teaching II</p> <p>10. Micro-teaching II</p> <p>11. Micro-teaching II</p> <p>12. Micro-teaching II</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システム		英語での教案とそれに基づいた模擬授業及び自己評価ワークシート、授業への貢献度	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語科教科教育法 I	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] これまでの言語教育では、どのような理論に基づく教育をしてきたか、その有効性はどうかなどについて、言語教育観の変遷をたどりながら学ぶ。これを土台として、日本における英語教育の現状とこれからの英語教育の在り方を考える。</p> <p>[講義概要] 新学習指導要領の実施にともない、コミュニケーション能力の育成、文法の位置づけ、絶対評価、小学校での英語教育など、さまざまな変化がみられる。教師は新しい考えを取り入れ、それに相応しい教え方をすることが求められている。 講義では、ビデオ教材なども用いながら語学教育方法のいくつかを紹介する。受講者には、現状にどのように生かしていけばよいか、出来るだけ具体的に考えてもらう。 また、現行の教科書を知ってもらうために、教材研究に関するレポートを書いてもらう。詳しくは、最初の授業時に説明する。</p>		<p>1.Introduction 授業の進め方、レポート課題について</p> <p>2.日本における英語教育の変遷と現状 ①</p> <p>3.日本における英語教育の変遷と現状 ②</p> <p>4.主な教授法の特徴 ①</p> <p>5.主な教授法の特徴 ②</p> <p>6.主な教授法の特徴 ③</p> <p>7.主な教授法の特徴 ④</p> <p>8.Audio-Visual Aids ①</p> <p>9.Audio-Visual Aids ②</p> <p>10.Testing and Evaluation ①</p> <p>11.Testing and Evaluation ②</p> <p>12.Planning Lessons</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に定めない。参考文献は授業時に紹介する。		研究レポートおよび期末試験により評価する。但し、出席が授業回数の1/2以下は不可とする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語科教科教育法 II	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 春学期の講義等を基に、授業一回分の学習指導案を作成し、その一部を実施してみる。</p> <p>[講義概要] 中学校または高等学校の学習指導案を作成し、それを基に模擬実習をする。実践と討論を中心に進める。 受講者が多い場合には、全員に模擬実習をしてももらえないことが生じるので、模擬実習をしない人には、特別に学外の公開授業見学のレポートを提出してもらう。これについては、最初の授業時に説明する。</p>		<p>1.授業の進め方、レポート課題(Teaching Plan 作成・公開授業見学報告)について Grammar の指導</p> <p>2. Listening and Speaking の指導</p> <p>3. Reading and Writing の指導</p> <p>4. 模擬実習 ①</p> <p>5. 模擬実習 ②</p> <p>6. 模擬実習 ③</p> <p>7. 模擬実習 ④</p> <p>8. 模擬実習 ⑤</p> <p>9. 模擬実習 ⑥</p> <p>10. 模擬実習 ⑦</p> <p>11. 模擬実習 ⑧</p> <p>12. 模擬実習 ⑨、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に定めない。 参考文献は授業時に紹介する。		平常点、レポートおよび期末試験により評価する。但し、出席が授業回数の1/2以下は不可とする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語科教科教育法 I	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction.</p> <p>We shall spend most of this term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based.</p> <p>As class time is limited and valuable, students will be expected to keep up on the reading on their own time. Class time will be reserved for lecture and discussion.</p> <p>If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course description & explanation. Assignment, reading.</p> <p>Week 2: Theme: The teaching situation. Lecture, discussion, assignment.</p> <p>Week 3: Theme: The role of the teacher. Lecture, discussion, reading.</p> <p>Week 4: Theme: The role of the school. Lecture, discussion, reading, assignment.</p> <p>Week 5: Theme: The role of the student. Lecture, discussion.</p> <p>Week 6: Theme: Testing and Surveys. Lecture, discussion, presentations, assignment.</p> <p>Week 7: Theme: Testing. Lecture, discussion, reading.</p> <p>Week 8: Theme: How is language learned? Lecture, discussion, reading.</p> <p>Week 9: Theme: The history of language teaching. Lecture, discussion.</p> <p>Week 10: Theme: Approach and method--traditional. Lecture, discussion, handouts.</p> <p>Week 11: Theme: Approach and method--modern. Lecture, discussion, assignment, reading.</p> <p>Week 12: Planning a lesson. Lecture, discussion. First semester summary and review. Assessment.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, and a final quiz based on the handouts and lecture.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語科教科教育法 II	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class, built on an understanding of the approaches, concepts, and reasoning on which foreign language education is based as presented in the first semester.</p> <p>This course will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first semester, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p> <p>We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of said techniques.</p> <p>If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course Introduction, Decide presentation schedule</p> <p>Week 2: Teaching Grammar--Lecture, Activities</p> <p>Week 3: Teaching Grammar--Student presentations</p> <p>Week 4: Teaching Reading--Lecture, Activities</p> <p>Week 5: Teaching Reading--Student presentations</p> <p>Week 6: Teaching Writing--Lecture, Activities</p> <p>Week 7: Teaching Writing--Student presentations</p> <p>Week 8: Teaching Listening--Lecture, Activities</p> <p>Week 9: Teaching Listening--Student presentations</p> <p>Week 10: Teaching Oral Communication--Lecture, Activities</p> <p>Week 11: Teaching Oral Communication--Student presentations</p> <p>Week 12: Course Review, Make-up presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hubbard, P. et al., <i>A Training Course for TEFL</i> . (Oxford Univ. Press.) Handouts.		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, a presentation, and a final paper.	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語科教科教育法 I EFL Methodology	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course introduces students to a variety of teaching techniques (how to teach) and seeks to improve students' own use of English and teaching skills. We will be reading articles and materials handed out and reacting to them orally and in writing. Your own past language learning histories will be used as information for discussion. We will video the presentations of each students and students will be able to see them again in the AV room. We will experience what we study as we study it to better understand through having the experience. We will also try to make it enjoyable and challenging with innovative learning.</p>		<p>Spring</p> <p>Week 1: Introduction: Teaching Practice Tips Week 2: Teacher beliefs and reflections Week 3: Lesson Planning Week 4: Presentation skills Week 5: Classroom Interaction Week 6: Activity Design and Adaptation Week 7: Evaluation and assessment Week 8: Group Presentations Week 9: Group Presentations Week 10: Group Presentations Week 11: Group Presentations. Week 12: Final feedback and reflections</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A collated package of materials will be sold to students in the first class.		<p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs (weekly feedback) and reflections. A paper at the end of each semester also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語科教科教育法 II EFL Methodology	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>SAME AS ABOVE ...PLUS This semester will concentrate on actual teaching and presentation skills in small groups.</p> <p>Please note:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. This class has an English mostly policy—students are expected to try to use mostly English as much as possible and to achieve 100% English classes half the time during the each semester. Mistakes are OK, they show you are trying. Your level is not important, but your WILLINGNESS to try to speak in English is. 2. The reading load for this class is 10 to 20 pages a week, but the materials are relatively easy. <p>For more information see http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timteaches.htm</p>		<p>Autumn Semester</p> <p>Week 1: Overview of the course and introduction. Week 2: Teacher's demonstration / presentation Week 3: Students Active Teaching Segments Week 4: Students Active Teaching Segments. Week 5: Mid-term evaluation test Week 6: Students Active Teaching Segments. Week 7: Students Active Teaching Segments Week 8: Students Active Teaching Segments Week 9: Students Active Teaching Segments Week 10: Students Active Teaching Segments. Week 11: Summing up the year-Practice Test Week 12: What I Learned this Year</p> <p>Comment from a previous student "Videoing our teaching in English let me see what I was doing. I could really improve. Now I am not afraid of standing in front of a class!"</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
SAME EVALTUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE		SAME EVALTUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	フランス語科教科教育法 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的></p> <p>言語教育に携わっていく上で知っておく必要がある基礎的な知識の学習を通して教育実習に必要な事柄を学ぶ。また日本におけるフランス語教育および言語教育の現状とこれからについて考える。</p> <p><講義概要></p> <p>フランス語教育の歴史的変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方、などを紹介する。主に講義形式となるが、教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン 3. 言語教育における教授法の歴史的変遷 1 4. 言語教育における教授法の歴史的変遷 2 5. 教材分析 1 6. 教材分析 2 7. 教室活動 1 8. 教室活動 2 9. 教材、教具の種類とその選択について 10. 授業実践のための準備とまとめ 教案の書き方 11. 評価について 12. まとめ (順番は多少前後することがある) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各テーマに応じて授業中に指示する。		出席と授業参加態度重視。 授業中の発表、課題、レポートなどを総合して評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	フランス語科教科教育法 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的></p> <p>教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動の実際、授業を行う際の注意点や問題点などについて考える。</p> <p><講義概要></p> <p>毎回、学生による模擬授業を行う。教案を作成し実際に授業を行いながら、授業を行う上で留意すべき点や問題点、およびその対処法について考える。</p> <p>短時間の模擬授業を各人が数回行えるようにする予定。回数と持ち時間は受講者数によって決める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：模擬授業のための準備 2. 模擬授業 3. 模擬授業 4. 模擬授業 5. 模擬授業 6. 模擬授業 7. 模擬授業 8. 模擬授業 9. 模擬授業 10. 模擬授業 11. 模擬授業 12. まとめ：教育実習のための注意点など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて授業中に指示する		出席と授業参加態度重視。 模擬授業の教案と準備、模擬授業、課題などを総合して評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。</p> <p>なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科教員の 1 日 2 社会科成立の背景と意義 3 社会科の教育課程とその変化 (1) 4 社会科の教育課程とその変化 (2) 5 社会科の教育内容 (1) 地理的分野 6 社会科の教育内容 (2) 歴史的分野 7 社会科の教育内容 (3) 公民的分野 8 社会科の今日的課題 (1) 国際化 9 社会科の今日的課題 (2) 社会の変化 10 社会科の今日的課題 (3) 環境 11 社会科の今日的課題 (4) 人権 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説(平成 10 年 12 月)社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱでは、社会科の授業実践のための様々な技能を身につけることを目的とする。</p> <p>社会科で身につけるべき広い意味での学力(知識・技能・態度等)を踏まえて、授業形態別に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。</p> <p>*中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科の目標と身につけるべき力 2 学習と評価 3 講義式授業の特質 4 教材の収集と利用(1)新聞・雑誌・書籍 5 教材の収集と利用(2)視聴覚教材 6 教材の収集と利用(3)インターネット等 7 生徒主体の学習指導法(1)調べ学習の指導 8 生徒主体の学習指導法(2)ディベートと発表 9 シミュレーション教材の利用 10 臨地学習の意義と計画 11 臨地学習の実践 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説(平成10年12月)社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	社会科教育法Ⅲ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。</p> <p>*中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校カリキュラムの中の社会科 2 社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 3 地理的分野の内容構成 4 歴史的分野の内容構成 5 公民的分野の内容構成 6 学習指導案の作成と模擬授業の準備 7 模擬授業(1) 8 模擬授業(2) 9 模擬授業(3) 10 模擬授業(4) 11 模擬授業(5) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説(平成10年12月)社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地理・歴史科教育法 I (世界史)	担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>生徒たちの「歴史離れ」「社会科離れ」が言われて久しい。歴史＝暗記のイメージや、社会的事象への関心の低下等が考えられるが、大げさに言えば「社会科の危機の時代」と言えよう。</p> <p>他教科に比べ、社会科は教員の人間性が授業に強く投影される教科である。</p> <p>本講義では、世界史を学ぶことの意義・目的、教える立場としての心構えや留意点等を解説する。同時に受講者全員が、世界史授業を創意工夫によって興味・関心を引き出し、さらに質の向上につなげてゆけるかを考えてほしい。その為には模擬授業に積極的に参加することを希望している。</p> <p>◇高校「世界史B」教科書（出版社は問わない）は、受講者全員が準備し、できれば資料収集や図録などが座右にあれば望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史学の果たすべき役割 世界史を学ぶ意義と目的、日本史との差異 2. 「世界史A」と「世界史B」 時代・地域の取扱いの比較、力点の置き方。 両者の長・短所 3. 「世界史」の授業展開にあたって【古代】 ～エリア、時代の特徴、重点指導項目～ 4. 「世界史」の授業展開にあたって【中世】 5. 「世界史」の授業展開にあたって【近代】 6. 「世界史」の授業展開にあたって【現代】 7. 模擬授業と討論① 8. 模擬授業と討論② 9. 模擬授業と討論③ 10. 模擬授業と討論④ 11. 模擬授業と討論⑤ 12. 模擬授業と討論⑥ <p>※上記の計画は受講者数や授業展開の進捗状況により、変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要があればその都度紹介する。		レポート、出席状況、模擬授業発表(希望者)等により総合的に判定する。状況によっては試験を実施することもありうる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地理歴史科教育法Ⅱ(地理)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。</p> <p>本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。</p> <p>*高等学校「地理・歴史科」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理教育の目標 2. 日本の地理教育の歩み 3. 諸外国の地理教育 4. 地理的見方・考え方について 5. 地図・地球儀の扱い方(1) 6. 地図・地球儀の扱い方(2) 7. 野外観察・調査の意義と計画 8. 野外観察の実践 9. 系統地理の学習指導 10. 地誌の学習指導 11. 主題的方法の学習指導 12. 授業環境の整備、学習指導計画と学習指導案 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版 参考文献は授業中に示される。		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	地理・歴史科教育法Ⅲ	担当者	新井孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 歴史史料を読んで、そこから授業を組み立てる力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 律令班田制の崩壊 ・ 荘園の仕組み ・ 非農業の世界と庶民生活 ・ 領主制の発展 ・ 戦国大名 ・ 近世国家の仕組み ・ 近代国家の形成 		<ol style="list-style-type: none"> 1 三世一身法・墾田永世私財法 2 神護寺領持田荘絵図(かせだのしょうえず) 3 東寺領鹿子木荘(かのこぎのしょう)の由来 4 鮎をとる川の民・供御人(くごにん) 5 戦乱と武士の活躍(寿永内乱・南北朝内乱・戦国の争乱) 6 南北朝内乱・守護大名と国人領主制 7 村の自治と民衆の抵抗 8 戦国大名の領国 9 將軍権力・大名統制・三都経済 10 商品経済と農民層の分解 11 近代化と西欧思想の導入・独逸学協会 12 明治憲法と日本国憲法・近代民主主義の価値 	
テキスト		評価方法	
随時、必要に応じて、プリント配布。		出席状態 試験成績	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	公民科教育法Ⅰ	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会科・公民科教育の歴史的変遷を通して、公民科教育の意義と課題について考察する。</p> <p>また「高等学校学習指導要領解説公民編」を活用して、公民科の目標、内容とその取扱い、指導計画の作成と指導上の配慮事項等について検討する。</p> <p>テキストや配付予定のプリントを活用して講義中心の授業を行うが、公民科教育に関わる今日的な話題や課題については、討論会やディベート等を行う機会をもつことを考えている。</p>		<p>1. 社会科・公民科教育の変遷</p> <p>① 社会科の成立と意義</p> <p>② 社会科教育の変遷と公民教育</p> <p>③ 社会科教育の再編成と公民科の創設</p> <p>2. 平成11年度版「学習指導要領公民科」の研究</p> <p>④ 公民科の目標と科目構成、「現代社会」の性格と目標</p> <p>⑤～⑥ 「現代社会」の内容とその取扱い</p> <p>⑦ 「倫理」の性格と目標</p> <p>⑧～⑨ 「倫理」の内容とその取扱い</p> <p>⑩ 「政治・経済」の性格と目標</p> <p>⑪～⑫ 「政治・経済」の内容とその取扱い</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』実教出版</p>		<p>試験、レポート、研究活動・発表、出席状況等で総合的に評価する</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	公民科教育法Ⅱ	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育現場での先進的な授業実践に触れるとともに、公民科各科目の学習指導案に基づいた模擬授業を行い、公民科教育における実践的な指導力を養うことを目指している。</p> <p>公民科教育法Ⅱでは、実践的な授業研究が中心になるので、学生諸君の積極的な授業参加を期待する。</p>		<p>1. 公民科教育の在り方</p> <p>① 指導計画の作成と授業展開</p> <p>② 学習指導の工夫</p> <p>③ 評価の工夫</p> <p>2. 授業実践研究</p> <p>④～⑤ 授業実践事例研究</p> <p>⑥ 学習指導案の作成</p> <p>⑦～⑫ 模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』実教出版</p> <p>参考書 魚山・小泉・植原・宮崎編『社会科・公民科教育マニュアル』清水書院</p>		<p>学習指導案、模擬授業、レポート等で総合的に評価する</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 情報科成立の背景 3 普通教科「情報」の目的 4 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色 5 専門教科「情報」の目的 6 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略 7 情報科教材研究(1) 情報A 8 情報科教材研究(2) 情報B 9 情報科教材研究(3) 情報C 10 情報科教材研究(4) 専門教科「情報」 11 情報科教材研究(5) 専門教科「情報」 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画・学習指導案の作成、先進校授業参観、模擬授業を予定している。</p> <p>なお、先進校授業参観については、相手校の都合等により日時をかえて行なう場合がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 普通教科「情報」の特性と年間学習指導計画 2 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画 3 「情報」学習指導の実際(授業見学) 4 「情報」学習指導の実際(授業見学) 5 「情報」学習指導の実際(授業見学) 6 学習指導案の作成 7 学習指導案の作成 8 模擬授業(1) 9 模擬授業(2) 10 模擬授業(3) 11 模擬授業(4) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降(春)	教科教育法特論Ⅰ	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、中学校における各教科の指導法に関する科目との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。 また、いくつかのグループに分かれ、総合的学習との関連を図った教科学習のカリキュラム案を作成する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 中学校教育の目的・目標 2 中学校の教育課程 3 教科教育と教科外教育 4 学力と評価 5 教科と総合的な学習 6 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(1) 7 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(2) 8 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(3) 9 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(4) 10 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(5) 11 総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(6) 12 作成したカリキュラムの発表・検討 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』 その他は、講義の中で紹介する</p>		出席、課題、レポートによる総合評価	

03年度以降(秋)	教科教育法特論Ⅰ	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教科教育法特論 II	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 英語という言語の特徴を学びながら、教育現場で役立つ指導方法を考える。授業では実際にテーマごとに教材作成をし、発表と討議をしながら進める。</p> <p>[講義概要] 各テーマについての講義の後、実際に教材を作り、互いに検討してみる。教材のベースとして、中学・高校の教科書を用いる。詳しくは第一回目の授業で指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Grammar and 4 skills 3. Pronunciation 4. Pronunciation (Presentation & Discussion) 5. Listening & Speaking 6. Listening & Speaking (Presentation & Discussion) 7. Reading & Writing 8. Reading & Writing (Presentation & Discussion) 9. Audio-Visual Aids 10. Audio-Visual Aids (Presentation & Discussion) 11. Testing 12. Testing (Presentation & Discussion) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に定めないが、授業中に参考文献を紹介する。		出席状況、授業への参加度および期末レポートにより評価を出す。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教科教育法特論 II	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 第二言語習得の研究は、近年目覚ましい発展を遂げている。この授業では最近の研究成果も補いながら、第二言語習得理論の視点から何が効果的な言語学習に関わっているかを学ぶ。</p> <p>[講義概要] 言語学習では発音、語彙、文法など特定の側面がどのように学ばれるのか、会話や読解での言語処理方法、言語学習にかかわる要因、教室での言語学習の特徴、学習スタイルと教授スタイルなどを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 第二言語習得研究 3. 文法の学習 4. 発音の学習 5. 語彙の学習 6. ディスコースの学習 7. 読解のプロセス 8. 学習要因としての動機づけと年齢 9. 学習方略 10. 教室内での言語入力と学習 11. 第二言語学習のモデル 12. 第二言語の学習スタイルと教授スタイル 	
参考文献		評価方法	
Vivian Cook (2001) <i>Second Language Learning and Language Teaching</i> , Arnold.		出席状況、授業への参加度および期末試験により評価を出す。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	道徳教育の研究	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 人間形成における道徳教育の必然性についての考察を深めることを介して、学校教育における道徳の指導の特質を踏まえながら、特設された「道徳の時間」における指導力を身に付けるための基礎力を養成することを目的とする。</p> <p>【講義概要】 次の諸問題について取り扱う。 道徳とは何か 道徳的価値についての分析 道徳はどのように学習されるのか 心身の発達と道徳教育との相関 道徳に関わる基礎概念 わが国における道徳教育の歴史 学校における道徳教育の実践 今日の青少年問題と道徳教育の課題 道徳の指導案の構想</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と道徳教育の課題 2. 道徳の基礎概念 3. 道徳の価値と文化・社会の相互的關係 4. 道徳の基礎としての道徳哲学 5. 道徳性の発達理論 6. わが国の道徳の歴史と伝統文化について 7. 戦前の道徳教育（修身教育）の問題 8. 戦後の道徳教育の構造（社会科の導入） 9. 学校における全面主義道徳教育の構造 10. 「道徳の時間」における指導の内容と方法 11. 教科の指導と道徳の指導の違いについて 12. 「道徳の時間」の指導案の構想 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『共にまなぶ道徳教育』改訂版 村井実・遠藤克弥 編著 川島書店 天野貞祐全集 栗田出版会		いくつかのレポートの提出と定期試験と指導案の提出による総合評価。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	道徳教育の研究	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	道徳教育の研究	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成においてきわめて重要な役割を果たす道徳教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 道徳教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本講では、道徳教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的理解を得たうえで、道徳について考えるうえでの基本的な問いを「教育において「いのち」のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道徳教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道徳教育とは何かについての検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の道徳教育体験を振り返る 2 道徳とは何か 3 学校教育における道徳教育の位置と役割(1) 4 学校教育における道徳教育の位置と役割(2) 5 「心のノート」について考える(1) 6 「心のノート」について考える(2) 7 教育における「いのち」の意味(1) 8 教育における「いのち」の意味(2) 9 「いのち」を考える授業 10 学習指導案の作成(1) 11 学習指導案の作成(2) 12 道徳教育の今日的課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『心のノート 中学校』、その他は講義の中で紹介する		出席、レポート、試験による総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	特別活動	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校教育における「特別活動」の意義や基本的性格歴史の変遷等について考察するとともに「学習指導要領解説特別活動編」を中心に、「特別活動」の目標や内容、指導計画の作成と内容の取扱い等について具体的に検討する。</p> <p>また「特別活動」に関わる今日的な諸課題を取上げ、課題解決に向けての方策や指導の在り方等について検討し、実践的な指導力を養うことを目的とする。</p> <p>テキスト、配付プリント等を活用して講義中心の授業を行うが、実践研究の場面では研究班を編成してディベートやディスカッション、ロールプレイングなどを通して、実践的な指導力を養う機会をもつ予定である。</p>		<p>1. 特別活動の意義</p> <p>① 学校教育と特別活動</p> <p>② 特別活動の歴史の変遷</p> <p>2. 特別活動の目標と内容</p> <p>③ 特別活動の目標</p> <p>④ 特別活動の基本的性格</p> <p>⑤ 特別活動の指導計画・指導案</p> <p>⑥ 特別活動の評価</p> <p>⑦ ホームルーム活動(学級)の特質と活動内容</p> <p>⑧ 生徒会活動の特質と活動内容</p> <p>⑨ 学校行事の特質と活動内容</p> <p>3. 特別活動の実践研究</p> <p>⑩ ホームルーム活動(学級)の指導案作成</p> <p>⑪ 学校行事に関するロールプレイング</p> <p>⑫ 部活動についてのディベート</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 文部省『高等学校学習指導要領解説特別活動』東山書房</p> <p>参考文献 山口満編『特別活動と人間形成』学文社</p>		試験、指導案、研究活動・発表、出席状況等で総合的に評価する	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	特別活動	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教科、道徳とともに教育課程の一領域を構成する特別活動の目的、内容、方法及びその今日の課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 特別活動は、戦後教育の初期から、民主主義に基づく学校教育の重要な教育内容として計画され、実践されてきた。本講では、学校教育の大幅な改革が求められている今日において、子どもたちの自主的、実践的、集団的な活動である特別活動がますます重要な意味をもってくるとの認識に基づいて、それが児童期や青年期の人間形成においてどのような役割をもっているのか、その役割を十分に果たすためには児童・生徒の諸活動をどのように組織し、指導することが望ましいのか等の問題について検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の特別活動体験を振り返る 2 現代の人間形成と特別活動(1) 3 現代の人間形成と特別活動(2) 4 教育課程における特別活動の位置と役割(1) 5 教育課程における特別活動の位置と役割(2) 6 学級活動・ホームルーム活動 7 児童会活動・生徒会活動 8 クラブ活動・(部活動) 9 学校行事 10 特別活動の今日的課題(1) 11 特別活動の今日的課題(2) 12 話し合い活動の実践 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口満編著『新版特別活動と人間形成』学文社、文部科学省『中学校学習指導要領』、その他は、講義の中で紹介する		出席、レポート、試験による総合評価	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的： 広義の教育の方法と技術に関する知見を得る。</p> <p>概要： 「コミュニケーション」、「教育・学習」そして「教師の役割・機能」を関連させながら、各自の教育方法のイメージを描けるよう支援する。併せて、受講生のグループ討論なども行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.プロローグ：概要説明 2.コミュニケーション論入門① 3.コミュニケーションの構成要素 4.視聴覚メディアと教育 5.教育メディアの種類と機能 6.ビデオ教材による教育現場 7.校外専門家による授業 8.グループ討論 9.教育工学と授業設計 10.測定と評価① 11.同上② 12.エピローグ：まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀啓男編著(2002) 『視聴覚メディアと教育』樹村房、¥1,800 ・参考文献は開講時に配布する。 ・ハンドアウトを配布する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数(15%)：欠席は3点減、遅刻は1点減、1/3欠席は単位不認定グループレポート(15%) ・個人レポート(20%) ・定期試験(50%) 	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育方法学	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、今日の学校教育、とりわけ授業をめぐる問題状況を踏まえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 毎日の授業をどのように工夫したらよいか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本講では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やVTRによる実際の授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の授業体験を振り返る 2 授業とは何か 3 教材研究とは何か 4 教材研究の事例の検討(1) 5 教材研究の事例の検討(2) 6 授業を作る技術(1) 7 授業を作る技術(2) 9 林竹二の授業論(1) 10 林竹二の授業論(2) 11 林竹二の授業論(3) 12 授業研究の今日的課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』 その他は、講義の中で紹介する		出席、レポート、試験による総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育機能の一つである生徒指導、教育相談、進路指導などに関する基本的原理について学ぶ。</p> <p>また生徒指導、進路指導上の今日的諸課題についての具体的な検討を通して、課題解決に向けての方策を考えるとともに、実践への心構えや指導の在り方等について学ぶことにする。</p> <p>配付プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、授業内容によってはディベートやディスカッション、事例研究発表会など、様々な学習形態で授業を展開する予定である。</p>		<p>① 生徒指導の意義と機能</p> <p>② 生徒指導の課題</p> <p>③ 青年期と生徒理解</p> <p>④ 生徒指導の方法原理</p> <p>⑤ 生徒指導の進め方と方法</p> <p>⑥ 生徒指導計画と組織・役割</p> <p>⑦ 生徒指導と教育課程</p> <p>⑧ 生徒に対する懲戒と体罰禁止</p> <p>⑨ 健康・安全に関する指導</p> <p>⑩ 在り方生き方教育と進路指導</p> <p>⑪ ~⑫生徒指導に関する事例研究 (校則問題、喫煙、いじめ、援助交際、薬物乱用問題等)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考書 『学校における教育相談の考え方・進め方』 『個性を生かす進路指導を目指して』 『生徒指導の手引き』 (以上文部省)</p>		<p>試験、研究活動・発表、出席状況等により、総合的に評価する</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	生徒指導法	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>生徒指導については、高校までの学校生活を通して、大半のみなさんはすでにある程度知っている。しかしそれは断片的であったり、偏った理解であったりすることが少なくない。そこで、この授業では、生徒指導という教師の仕事(教育作用)の重要性を認識するとともに、生徒指導の正しい理解を図ることを目標としたい。</p> <p>講義概要</p> <p>生徒指導の意義と目的、生徒指導の内容・領域、生徒指導の組織と指導体制、生徒指導と教育課程との関連、児童生徒理解のすすめ方、実際の指導方法(集団指導法と個別指導法)、進路指導などについて取り上げる。</p>		<p>全12回の授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義と課題 2 生徒指導と教育課程との関連 3 生徒指導の組織と計画 4 児童・生徒理解Ⅰ 5 児童・生徒理解Ⅱ 6 集団指導法Ⅰ 7 集団指導法Ⅱ 8 個別指導法Ⅰ 9 個別指導法Ⅱ 10 問題行動の理解と指導Ⅰ 11 問題行動の理解と指導Ⅱ 12 進路指導 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教師養成研究会・江川編『生徒指導の理論と方法 改訂版』学芸図書、2000年。		出席状況、春学期定期試験による総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	学校カウンセリング	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カウンセリングとは、「相談」活動であり、対人援助の方法の一つである。 また学校は「教育」を通して個人の能力と人格発達を促進する場・機関である。 学校に専門的なカウンセリングを導入することにより、個人個人が異なる生徒・学生の成長を、より有効に促進していこうとする考えが現れるのは当然であろう。 講義ではカウンセリングの考え、基本的な技法、学校でのニーズと問題点、いじめ・不登校などの対処法などを、講義、実習、討論などを通して検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングとは 2. 話すことと聞くこと 3. カウンセラーの役割 4. 学校という場・組織 5. 生徒・学生の人格発達と課題 6. 学校カウンセリングの効用と限界 7. カウンセリングの実際(1) 8. カウンセリングの実際(2) 9. カウンセリングの実際(3) 10. いじめ 11. 不登校 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いず、適宜、参考文献一覧とプリントを配布する。</p>		出席、授業中に出す課題、学期末レポートによる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	学校カウンセリング	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず初めにカウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。</p> <p>次に学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察した上で、実際に心理テストを実施する。</p> <p>まずカウンセリングとは何かということについて全体的な知識を深める。次に、それをもとに、学校でカウンセリングをどのように利用し、それによって生徒にどのような意味や効果があるかについて他方面から検討していく。それらをふまえて、現在学校で問題となっている事柄、あるいは生徒自身の悩みを具体的にどのように解決していくかを考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの目的とその意義について考察する。 2. カウンセリングの理論について比較検討する。 3. カウンセリングの技法について具体的な例をもとに講義する。 4. 学校カウンセリングの目的と特色について考察する。 5. 学校場面におけるカウンセリングの基本的実習を行う。 6. 学校カウンセリングの現状と学校カウンセラーの役割について考察する。 7. 非行、いじめ、登校拒否など現在学校で問題になっている行動について講義する。 8. 生徒の精神衛生 神経症、精神病、自殺等について考察する。 9. 現代青年の悩み 現代青年の悩みを構造的に理解する。 10. 青年期の友人関係、親子関係、恋愛、性の諸問題について検討する。 11. 知能テスト、性格テストの理論と種類について講義する。 12. 心理テストの実施 性格テストを実施し、自己理解を深める。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新版カウンセリングと心理テスト』林潔他 ブレーン出版		評価方法は講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	学校カウンセリング	担当者	林 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>生徒への対応の方法としてのカウンセリングの役割について紹介します。</p> <p>自分だけで分かる自分もあるでしょう。でも限界がありそうです。人は他の人や出来事との関係で自分に気づいていきます。鏡やテープがなければ、自分の顔や声も分からないでしょう。</p> <p>愛情には相手を支配する愛情と、支配しない愛情(第三者的なかかわり)の2つのタイプがあります。共に大事ですが、カウンセリングのかかわりは後者です。</p> <p>まずカウンセリングの基礎として、戦後のわが国のカウンセリングの世界に大きな影響を与えたロジャースの来談者中心カウンセリングを取上げます。その人の気持ちについていくー気持ちの共有を大事にします。</p> <p>続いて日常的に活用しやすいので、認知行動療法について紹介します。つらくなったら、自分に気持ちを見つめてみましょう。本当にそう思わないといけないのか、そう思う根拠は何だろう。理性的に対応しようという試みです。</p> <p>質問大歓迎です。メールも利用してください。 hayashi@shiraume.ac.jp</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜカウンセリング? 日常的な相談の光と影 2. カウンセリングに行くのは弱い人? No!自分に気づくきっかけの一つ 3. VTR「カウンセリングの進め方」 4. 受理面接 相談に来た人の全体像を理解します 5. 来談者中心カウンセリング(1) 人格論と不適用モデル 6. 同 (2) カウンセリングの方法(1) 7. 同 (3) カウンセリングの方法(2) 8. カウンセリングの倫理 9. 認知行動療法のアウトライン 10. 認知の歪みについて 11. 認知行動療法の方法(1) セルフモニタリング、現実検証、認知的再体制化 12. 認知行動療法の方法(2) 判断決定の学習、社会的技能訓練(SST)、他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時、紹介します		出席・小レポート・期末試験による	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	学校カウンセリング	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教師としての資質向上を図ることを目標とする。</p> <p>内容の柱は、以下のとおり。</p> <p>① カウンセリングと学校カウンセリング ② 生徒理解と援助のポイント ③ カウンセリングの実際 ④ カウンセリングの理論と技法 ⑤ 学校カウンセリングと心理テスト ⑥ 保護者、校内組織その他の活用と連携</p>		<p>1 カウンセリングと学校カウンセリング 2 カウンセラーの役割、教師の役割 3 生徒理解と援助のポイント(1):紙上応答実習 4 生徒理解と援助のポイント(2):応答の点検 5 カウンセリングの実際(1):テープを聞く 6 カウンセリングの実際(1):問題の焦点は? 7 カウンセリングの理論と技法(1) 8 カウンセリングの理論と技法(2) 9 カウンセリングの理論と技法(3) 10 学校カウンセリングと心理テスト 11 保護者への援助:コンサルテーション 12 校内組織その他の活用と連携/まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントによる。参考文献は必要に応じて示す。		出席状況、授業中に課す提出物、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	総合演習	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人類のかかえている諸課題について、多面的な視点から分析・検討する能力を養うとともに、これらの課題について個別教科の枠を超えて総合的な学習の時間で扱う方法を考える。</p> <p>本授業では、身近な問題を事例としながら考えていく。講義というよりは受講者が、グループ活動等で調べ、さまざまな形で発表するという形式で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育における総合的学習の意義 2 獨協大学から世界の課題を考える(環境) 3 グループワーク(フィールドワーク) 4 グループワーク 5 グループワーク 6 発表 7 獨協大学から世界の課題を考える(社会) 8 グループワーク(体験学習) 9 グループワーク 10 グループワーク 11 発表 12 まとめ <p>*春か秋の野外体験学習に参加すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に個別に示される。		出席・プレゼンテーション・レポート等を総合的に判断する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	総合演習	担当者	渋谷 英章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代的な課題の中から、「国際理解」をとりあげ、資料収集、討議、発表などを通じて、「総合的な学習の時間」を自ら体験することを通して、その意義を理解するとともに、情報収集・情報検索やグループ学習の方法、プレゼンテーションの技術などの総合学習の指導方法を修得する。</p> <p>講義概要 ①「国際理解」の基本的課題について提示する。②「世界の子どもたちと日本の子どもたちの比較」を課題とし、学生各自が興味関心に応じてトピックを選び、トピックごとにグループを編成する。③グループごとに、まず外国の子どもたちの現状について情報収集、討議を行う。④つぎに、日本の子どもたちの現状について情報収集、討議を行う。⑤両者の比較検討を行い、グループごとにその検討の成果を発表する。⑥全体討議を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 個人発表とグループ編成 3 グループによる研究計画の作成 4 研究計画発表 5 グループ・ワーク 6 中間発表 7 グループ・ワーク 8 グループ・ワーク 9 グループ・ディスカッション 10 グループ発表 11 グループ発表 12 全体討議 <p>* 春か秋の野外体験学習に参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		成果発表(グループ)と自己評価等のレポート(個別に提出)、出席によって評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	総合演習	担当者	渋谷 英章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	総合演習	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 小・中・高等学校の教育課程に導入された「総合的な学習の時間」についての目的・内容・方法等についての知識と技術を習得し、個別教科の領域を越えて指導することが出来るような経験カリキュラムや問題解決学習法を実践的に学習することを目的とする。</p> <p>【講義概要】 総合的な学習の時間の目的・内容・方法についての基本的な学習指導を行う。 現代社会の抱える課題について具体的な事例を通じて把握、分析、考察をする。 グループ学習、調査研究等を通じて、問題解決学習法を実践的に習得する。 研究テーマ調査結果のグループ発表を通じて、プレゼンテーション技術の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な学習の時間が導入された趣旨 2. 総合的な学習の時間の内容と方法の特質 3. グループ編成と研究テーマの設定 4. グループ研究(1) 5. グループ研究(2) 6. グループ研究(3) 7. グループ研究(4) 8. グループ研究(5) 9. グループ研究(6) 10. 研究成果の発表 11. 研究成果の発表 12. 各グループの発表に基づく全体討議 <p>※春か秋の野外体験学習に必ず参加すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特になし。 参考文献は、必要に応じて指示する。</p>		<p>出席、グループ活動の成果、発表内容、レポート提出などによって総合判断をする。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	総合演習	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、小・中・高の教育課程に新たに設けられた総合的な学習の時間において行われる教育活動の内容、方法及びその今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、中学校における総合的な学習の時間を想定し、そこで行われる体験的な学習活動のプランの作成、そのプランに基づく模擬的な学習活動の実践、体験学習終了後の学習評価及びグループ発表を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義とねらい、グループ分け 2 各グループにおけるテーマの設定(1) 3 各グループにおけるテーマの設定(2) 4 グループ研究(1) 5 グループ研究(2) 6 グループ研究(3) 7 グループ研究(4) 8 グループ研究(5) 9 グループ研究(6) 10 体験学習 11 体験学習の評価・反省(1) 12 体験学習の評価・反省(2) <p>* 春か秋の総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の中で紹介する		出席、課題、レポートによる総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教育実習論Ⅰ(事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教職課程教育のまとめであり、最大の関門でもある「教育実習」について、その意義と目的、内容と実際について学ぶ。</p> <p>また、学校教育が抱えている今日的な課題や教育改革の動向などについて検討し、それを踏まえた指導の在り方を考察するなど、教育実習の事前指導としての役割が十分果たせるよう工夫したい。</p> <p>教育課題検討会や学習指導案の作成、模擬授業など受講者中心の授業になるので積極的・主体的な授業参加を期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義 <ol style="list-style-type: none"> ① 教育実習の意義と目標 ② 教育実習の形態 2. 教育実習の内容 <ol style="list-style-type: none"> ③ 学校運営組織と校務分掌 ④ 生徒理解と生徒指導 ⑤ 教育課程と学習指導要領 ⑥ 学習指導と教材研究 ⑦ 道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導 3. 教育実習の実際 <ol style="list-style-type: none"> ⑧ 学習指導案の作成 ⑨～⑩ 学習指導の実際(模擬授業、示範授業) ⑪ 教師としての勤務と実習生 4. 現代の教育課題と教師の役割 <ol style="list-style-type: none"> ⑫ 学校の課題と教師の役割 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 『教育実習の指針』 (獨協大学)		発表、学習指導案、模擬授業、レポート、出席状況等により総合的に評価する	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教育実習論Ⅰ(事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 教育実習の意義や目標、内容及び方法についての理解を深め、効果的で充実した教育実習が体験できるようにするための事前指導としての予備的で実際の学習を目的とする。</p> <p>【講義概要】 次の事項について取り扱う。 教育実習の意義、目的。 教育実習の内容と方法 学校の組織と運営 実習生としての心得とサービスの在り方 授業への取り組みの方法と指導案作成。</p> <p>*教育実習の事前指導であるから原則的に欠席は認められない。止むをえない事情によって欠席せざるを得ない場合は欠席届とレポート提出を求める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義・目的について 2. 教育実習の形態(観察・参加・実習) 3. 学校の組織と運営 4. 実習生の心得とサービスの在り方 5. 教育実習の内容と方法 6. 授業への取り組み(教材研究の方法) 7. 授業への取り組み(指導案の構想) 8. 発問・板書・授業形態・教材教具の工夫 9. 指導案作成 10. 指導案作成 11. 指導案作成と模擬授業 12. 指導案作成と模擬授業 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教育実習の指針(獨協大学)		出席とレポート・指導案等の提出によって総合判断をする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	教育実習論Ⅰ(事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。教育実習終了後には、自らの実習体験を振り返り、今後の学習課題を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 学校の組織と教師の職務 4 教材研究 5 発問・板書 6 生徒とのコミュニケーション 7 評価 8 学習指導案の作成(1) 9 学習指導案の作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』</p> <p>その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席、レポート、試験による総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教育実習論Ⅰ(事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	教育実習論Ⅱ(事後指導)	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 教育実習の反省を通じて、教師に求められる実践的指導力とは何であるかについて自らの経験から考察し、学習指導と生徒指導の両面から、各自が教職につくための学習課題を見出すことを目標として実践的指導を行う。</p> <p>【講義概要】 学習指導と生徒指導の両面から学習課題を見つけることが出来るように基本的な事柄を解説し、個々の学習者の実態に応じた実践的指導を徹底する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の反省(1) 2. 教育実習の反省(2) 3. 教育実習体験の発表 4. 教育実践に不可欠な能力とは何か 5. 実習に欠けていたと思われるものは何か 6. 教材研究 7. 教材研究 8. 指導案作成 9. 指導案作成 10. 指導案作成 11. 模擬授業 12. 模擬授業 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考文献は適宜指示する。		教材研究・指導案作成・模擬授業等の成果を総合的に判断する	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	教育実習論Ⅱ(事後指導)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の体験の発表 2 教育実習レポートの作成 3 発問 4 板書 5 各種資料及び機器の活用 6 生徒とのコミュニケーション 7 授業評価 8 学習指導案の作成(1) 9 学習指導案の作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 近年の教育改革の現状と課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する		出席、課題、レポートによる総合評価	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	介護ボランティアの理論と実践	担当者	川野 祐二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>少子・超高齢化社会になる。介護が必要になっても、子供は親から離れて暮らし、仕事も忙しい。家族は支えられない。行政サービスだけでは、十分な支援ができない。しかし、介護を必要とする本人や家族は、爆発的に増える。</p> <p>そこに登場したボランティアの存在は、超高齢化社会を乗り切る妙薬となるのだろうか。人々の幸福を支え、暮らしを営む力となるだろうか。</p> <p>この授業は、NPO・NGOの解説をした後、ボランティアとはどのような人々であるのかを共に考える。いったい、彼らはなぜ活動するのだろうか。</p> <p>また、介護の現場で起きる人間関係と、福祉組織の特徴を知り、よりよいヒューマンサービスとは何かを考察する。それは、介護のみならず、人的サービスや労働することの全てに関わる問題であり、受講者の社会生活に直結することだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1, NPO・NGOの経緯と背景 2, NPOにはどんなものがあるのか 3, ボランティアの定義を試みる 4, 互いに助け合う時代(があった) 5, なぜボランティア活動をするのか 6, 働くモチベーションを整理する 7, 介護の仕事(ビデオ) 8, 介護専門職とはどのような人たちか 9, 在宅介護の人間関係 10, 介護される側を考える 11, 介護する側を考える 12, ヒューマンサービス組織の特徴 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし。ノートをしっかり取ること(レポートに必須)。		授業参加(出席・発言など)。レポート(2回を予定)。試験は行わない。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	介護ボランティアの理論と実践	担当者	川野 祐二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	日本史概説Ⅰ	担当者	會田康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、日本列島に展開した歴史を鳥瞰し、とりわけ前近代を素材としてその時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを取り上げて講義する。文献やさまざまな史料を提示しながら、学問としての歴史学がこれまでに何を明らかにし、何を課題としているかなどにも触れ、歴史を学ぶことの意味や歴史研究と歴史教育の関係・あり方などについて考えてもらうことを目的としたい。極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ的に—日本史とは何か— 2. 日本史の学び方—史料を科学する— 3. 弥生のムラ—古代の社会①— 4. ワカタケル大王の時代—古代の社会②— 5. 木簡からみた貴族社会—古代の社会③— 6. 中世の村と都市① 7. 中世の村と都市② 8. 中世の村と都市③ 9. 江戸図屏風をよむ 10. 慶安の触書をめぐって 11. 若者仲間と主体をめぐって—近世の民衆①— 12. 若者仲間と主体をめぐって—近世の民衆②— <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、授業時にプリントを配布する。参考文献は、講義の中で適宜紹介する。</p>		<p>試験と出席状況を総合的に判断して評価する。状況に応じて簡単なレポートを課すこともある。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	日本史概説Ⅱ	担当者	會田康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前近代を対象とした日本史概説Ⅰに引き続き、近現代を範囲として考えていきたい。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても必要に応じて取り上げる。この講義を通じて、近現代の国際社会の中における国民国家の問題、日本のあり方などを検討していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代・中世の自国認識と他国認識① 2. 古代・中世の自国認識と他国認識② 3. 日本型華夷秩序の形成・展開① 4. 日本型華夷秩序の形成・展開② 5. 「鎖国」論をめぐって① 6. 「鎖国」論をめぐって② 7. 近代の対外認識① 8. 近代の対外認識② 9. 近代の対外認識③ 10. 国民国家形成の世紀① 11. 国民国家形成の世紀② 12. エピローグ的に—歴史学と歴史教育をめぐって— <p>なお、日本史概説Ⅰ同様、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、授業時にプリントを配布する。参考文献は、講義の中で適宜紹介する。</p>		<p>試験と出席状況を総合的に判断して評価する。状況に応じて簡単なレポートを課すこともある。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	外国史概説 I	担当者	兼田 信一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最近の中国事情を紹介し、その後中国の歴史、特に新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史を概観する。</p> <p>1990年代以降の経済発展とそれに伴う社会の急激な変貌は、従来の中国社会像を根底から揺さぶり、我々に新たな中国認識の構築を迫っているように思える。</p> <p>一体、中国社会とはどのような社会なのか？</p> <p>中国古代史を概観しながらこの問題の一端に触れて見たい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 現代中国事情(地理的概況など) 3. 現代中国事情(歴史的に見た中国社会の特徴) 4. 中華文明の形成(新石器時代殷・周) 5. 氏族社会の崩壊と小農民の登場(春秋・戦国) 6. 集権国家の構造と展開(秦漢帝国) 7. 豪族の台頭と社会の変質(後漢・三国) 8. 農民支配の再編(魏晋南北朝) 9. 律令国家の登場(唐) 10. 唐帝国の滅亡 11. 戦後日本における中国史研究の歩み(特に古代史研究を中心にして) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
堀敏一著『中国通史』(講談社学術文庫) 他は講義中に配布するプリント等による。		出席状況と試験により評価する	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	外国史概説Ⅱ	担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「和魂洋才」という言葉が示すとおり、明治・大正期はもちろん、今日においても依然として日本社会の底流にはこの考え方が生き続けている。明治維新によって近代化を成し遂げたわが国が受容し、「血や肉」としたヨーロッパの「伝統」とは何だったのかを考えたい。講義では、ヨーロッパの「近代化過程」を多角的に考察し、その功罪を論ずる。</p> <p>テキストは特に指定しないが下記の参考文献を挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大下尚一／望田幸男編『西洋の歴史(近現代編)』(ミネルヴァ書房) ・ 望田幸男編『西洋の歴史基本用語集(近現代編)』(ミネルヴァ書房) ・ 尚樹啓太郎『西洋史30講』(東海大学出版会) ・ 成瀬 治『世界史の意識と理論』(岩波書店) ・ 堺 憲一『あなたが歴史と出会うとき』(名古屋大学出版会) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 歴史叙述・歴史理論の変遷(1)古代～中世 3. 歴史叙述・歴史理論の変遷(2)近代以降 4. 「近代」の概念について 5. 宗教改革～宗教改革にみる近代性と、インパクトについて 6. 同上 7. ヨーロッパ市民革命～英仏両革命の比較 8. 同上 9. 産業革命～拝金主義と社会の諸矛盾、社会主義の必然性について 10. 同上 11. 「近代」総括 12. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の参考文献を参照。		試験を実施する。＜論述形式、ノート等持ち込みは不可＞	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地理学概説Ⅰ(自然)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。</p> <p>本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。</p> <p>*講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション(講義の概要) 2.地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識 3.地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形 4.地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む 5.東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町 6.東京・関東の地形的特色(2)武蔵野台地 7.東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地 8.東京・関東の地形的特色(4)東京湾 9.東京・関東の地形的特色(5)関東山地 10.東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール 11.東京・関東の気候的特色(2)観測データと景観から気候を読む 12.東京・関東の気候的特色(3)都市気候 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート(小課題)、出席状況	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地理学概説Ⅱ(人文)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。</p> <p>本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。</p> <p>*高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.地理学の歴史(1) 2.地理学の歴史(2) 3.地理学の歴史(3) 4.地理学の主要概念(1)環境 5.地理学の主要概念(2)景観 6.地理学の主要概念(3)場所と立地(1) 7.地理学の主要概念(4)場所と立地(2) 8.地理学の主要概念(5)伝播 9.地理学のトピックス(1)メンタルマップ 10.地理学のトピックス(2)時間地理学 11.地理学のトピックス(3)地理情報システム 12.地理学のトピックス(4)教育と地理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート(小課題)、出席状況	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	地誌学概説Ⅰ(日本)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。*受講者は地図帳を持参すること。講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。</p> <p>高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション—系統地理学と地誌学 2. 「地域」の概念 3. 地域分析の基礎(1) 文献・資料・統計の所在と検索 4. 地域分析の基礎(2) 統計の利用 5. 地域分析の基礎(3) 統計の地図表現 6. 地域分析の基礎(4) 空間分析 7. 地域分析の基礎(5) 地域構造 8. 日本地誌(1) 自然環境 9. 日本地誌(2) 風土と地域文化 10. 日本地誌(3) 人口分布と人口構造 11. 日本地誌(4) 産業と地域変容 12. 日本地誌(5) 日本の地域構造 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート(小課題)、出席状況	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	地誌学概説Ⅱ(世界)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、ヨーロッパを事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>*受講者は地図帳を持参すること。</p> <p>高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界認識の基礎 2. 世界の地域構造とその変容(1) 自然的基盤 3. 世界の地域構造とその変容(2) 文化圏 4. 世界の地域構造とその変容(3) 国家と経済 5. ヨーロッパ地誌(1) ヨーロッパとは 6. ヨーロッパ地誌(2) 自然景観 7. ヨーロッパ地誌(3) 文化の諸相(1) 8. ヨーロッパ地誌(4) 文化の諸相(2) 9. ヨーロッパ地誌(5) 文化の諸相(3) 10. ヨーロッパ地誌(6) 国家とEU 11. ヨーロッパ地誌(7) 産業と経済 12. ヨーロッパ地誌(8) 地域構造 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート(小課題)、出席状況	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	法律学概説Ⅰ 法律学概説(通年)	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁であることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となりますが、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、まず最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論および社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 法とは何か 3. 法学とは何か 4. 法の学び方 5. 法体系の枠組みと法の分類 6. 憲法の基本原理(1)－国民主権－ 7. 憲法の基本原理(2)－平和主義、基本的人権尊重主義－ 8. 国の統治機構 9. 平等権 10. 自由権(1)－精神的自由・経済的自由－ 11. 自由権(2)－人身の自由－ 12. 社会権 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	法律学概説Ⅱ 法律学概説(通年)	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁であることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となりますが、そのためには法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。法の基本的な事柄は、「法律学概説Ⅰ」で取り扱いますので、「法律学概説Ⅰ」を受講してから本講義を受講することを推奨します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 裁判の仕組み 2. 財産関係と法 3. 経済取引と法 4. 家族と法 5. 犯罪と法 6. 刑罰と法 7. 労働と法 8. 事故と法 9. 社会保障・社会福祉 10. 医療と法(1)－医療提供の理念－ 11. 医療と法(2)－医療過誤－ 12. 情報化社会と法 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	政治学概説Ⅰ 政治学概説(通年)	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたち市民の教養としての実践的課題を意識した講義をする。デモクラシーにおける統治という枠組のもとで、政治の課題、統治の構成原理、デモクラシーを支えるものについて理解を深める。また扱う項目と水準は、公務員試験科目政治学、教職科目政治学に対応する。授業は、テキストに基づいてポイントをわかりやすく講義する。テキストの予習復習を受講条件とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治と経済 2. 自由と自由主義 3. 福祉国歌 4. 国家と権力 5. 市民社会と国民国家 6. 国内社会と国際関係 7. 国際関係における安全保障 8. 国際関係における富の配分 9. 議会 10. 執政部 11. 官僚制 12. 中央—地方関係 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』(New Liberal Arts Selection) 有斐閣, 2003.</p>		<p>講義への出席と学期末試験によって評価する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	政治学概説Ⅱ 政治学概説(通年)	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたち市民の教養としての実践的課題を意識した講義をする。デモクラシーにおける統治という枠組のもとで、政治の課題、統治の構成原理、デモクラシーを支えるものについて理解を深める。また扱う項目と水準は、公務員試験科目政治学、教職科目政治学に対応する。授業は、テキストに基づいてポイントをわかりやすく講義する。テキストの予習復習を受講条件とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際制度 2. 政策過程 3. 対外政策の形成 4. 制度と政策 5. デモクラシー 6. 投票行動 7. 政治の心理 8. 世論とメディア 9. 選挙と政治参加 10. 利益団体と政治 11. 政党 12. 政治とジェンダー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』(New Liberal Arts Selection) 有斐閣, 2003</p>		<p>講義への出席と学期末試験によって評価する。</p>	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	社会学概説 I 社会学概説 (通年)	担当者	有吉 広介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的は、中学・高校の社会教育のなかで、取り上げられている社会学的知識・説明・解釈を中心として、現代の社会生活を理解するのに必要な考え方を講義する。</p> <p>春学期の講義の概要は、社会的存在としての人間の諸相を考えるための基本的な考え方を取り上げて、まず、人間の社会行動の特性と、そこにみられる人間、社会、および文化の相互関係を考察する。ついで、社会集団一般および家族集団の構造と機能を問題にする。引き続いて、近代から現代にわたって展開してきた社会の産業化、都市化・合理化、官僚制化、民主化、中央集権化、大衆化、および職業社会化の諸現象について逐次ふれながら、現代社会の社会問題の基礎を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会行動および人間・社会・文化の相互関係 2. 社会集団の構造と機能 3. 家族の構造と機能 (1) 4. 家族の構造と機能 (2) 5. 社会の産業化 (1) 6. 社会の産業化 (2) 7. 都市化社会 8. 社会の合理化・官僚制化 9. 民主化・中央集権化・大衆化 10. 職業の社会構造 (1) 11. 職業の社会構造 (2) 12. 講義の補足 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。 参考文献は適時紹介		学期末などでのレポートで評価する。	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	社会学概説 II 社会学概説 (通年)	担当者	有吉 広介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的は春学期と同じである。</p> <p>秋学期の講義の概要は、社会の階層構造および日本人の階層意識、産業社会における教育の社会構造と日本の学歴社会、脱工業社会、少子高齢社会、生活の質のアプローチ、および社会のグローバリゼーションの諸項目について、現代の社会生活を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の階層化・流動化 2. 日本人の階級意識 3. 教育の社会構造 4. 日本の近代化と学歴社会 5. 脱工業化社会 6. 少子高齢社会 7. 高齢社会の者問題 8. 少子社会の諸問題 9. 生活の質の視点からの社会の分析 10. 社会のグローバリゼーション (1) 11. 社会のグローバリゼーション (2) 12. 講義の補足 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の理解に必要なプリントや資料は毎回配布する。 参考文献は適時紹介		学期末などでのレポートで評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	哲学概説Ⅰ 哲学概説(通年)	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。</p> <p>一般教養としての哲学的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。</p> <p>西欧思想を歴史的に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。</p> <p>西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。</p> <p>個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らとその思想を形成した動機や課題、歴史的立場付けなどを重視して論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 哲学とは何か(1) 2 ソクラテス以前 3 ソクラテス 4 プラトン 5 アリストテレス 6 スコラ哲学 7 科学革命 8 ルネサンスと宗教改革 9 合理論と経験論(1) 10 合理論と経験論(2) 11 社会契約説 12 啓蒙主義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『精神史としての哲学史』角田幸彦編 東信堂 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	哲学概説Ⅱ 哲学概説(通年)	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 カント 2 ドイツ観念論 3 キルケゴール 4 ニーチェ 5 マルクス 6 フッサール・ハイデッガー・ 7 ヤスパーズ(1)(2) 8 歴史主義・解釈学 9 ウィトゲンシュタイン 10 構造主義 11 言語哲学 12 哲学とは何か(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『精神史としての哲学史』角田幸彦編 東信堂 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	倫理学概説Ⅰ 倫理学概説(通年)	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 高等学校における公民科の中で、「倫理」について指導するためには、倫理学についての体系的知識と現代社会の抱える倫理の課題について考察する訓練が必要不可欠である。そのために必要不可欠な倫理学の基礎概念と今日の社会が抱える倫理的課題について分析考察することを目的とする。</p> <p>【講義概要】 倫理学とはどのような学問であるのか西欧の思想に基づいて体系的に明らかにする。 倫理学の主要な概念について思想史上重要な学説を手懸りとして考察する。 今日の人類社会が抱える様々な倫理的課題を明らかにして、その問題解決の方策を倫理的視点から考察分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学とはどういう学問か 2. 人間の社会を秩序づける理法 3. 個別と普遍における矛盾と調和 4. 善と悪をめぐる倫理的立場の類型 5. 倫理的行為の評価の類型 6. 道徳と幸福、道徳と義務の問題 7. 人間は自然をどう見てきたか 8. ロゴスと自然 9. 機械論的自然観 10. 物理学と生物学をめぐる現代の自然観 11. 労働と自然 12. エコロジ的地球像と民衆の自然 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。 参考文献は必要に応じて指示する。		レポートの提出と定期試験と指導案の提出によって総合判断する	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	倫理学概説Ⅱ 倫理学概説(通年)	担当者	鳥谷部 志乃恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 高等学校における公民科の中で、「倫理」について指導するためには、倫理学についての体系的知識と現代社会の抱える倫理の課題について考察する訓練が必要不可欠である。そのために必要不可欠な倫理学の基礎概念と今日の社会が抱える倫理的課題について分析考察することを目的とする。</p> <p>【講義概要】 倫理学とはどのような学問であるのか西欧の思想に基づいて体系的に明らかにする。 倫理学の主要な概念について思想史上重要な学説を手懸りとして考察する。 今日の人類社会が抱える様々な倫理的課題を明らかにして、その問題解決の方策を倫理的視点から考察分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界をどう捉えるか 2. 世界における人間の位置 3. 人類社会の抱える倫理的諸問題 4. 物質と生命の相克を齎した医療技術の進歩 5. 科学と宗教の相克を齎した生命倫理の問題 6. 医療と教育の先進諸国と発展途上国の格差 7. 国連とNGOの果たす役割 8. 情報社会における倫理 9. 自由主義の時代の光と影の問題 10. 生命倫理と環境倫理 11. 人口問題・食糧問題・天然資源の枯渇 12. コスモロジーとエコロジーの視点の重要性 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。 参考文献は必要に応じて指示する。		レポートの提出と定期試験と指導案の提出によって総合判断する	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	宗教学概説Ⅰ 宗教学概説(通年)	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じて来ている。</p> <p>そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。</p> <p>更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。</p> <p>前期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 宗教とは何か(1) 2 神話と宗教 3 ユダヤ教 4 キリスト教(1) 5 キリスト教(2) 6 キリスト教(3) 7 イスラム教(1) 8 イスラム教(2) 9 仏教(1) 10 仏教(2) 11 ヒンドウ教 12 儒教 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩書房 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	宗教学概説Ⅱ 宗教学概説(通年)	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は前期に同じ。</p> <p>後期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 道教 2 日本の宗教の歴史と現在(1) 3 日本の宗教の歴史と現在(2) 4 日本の宗教の歴史と現在(3) 5 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など)(1) 6 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など)(2) 7 宗教集団の諸問題(1) 8 宗教集団の諸問題(2) 9 学校教育と宗教(1) 10 学校教育と宗教(2) 11 宗教とは何か(2) 12 宗教学の課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩書房 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	心理学概説Ⅰ 心理学概説(通年)	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心理学の基本的知見について理解を深めていただきたい。そこで、まず心理学の歴史的展開をみながら、現代においても大きな影響力をもつ心理学の重要な概念や理論を概説していく。さらに、春学期では人間の発達についてみていく。各発達期の特徴と発達課題について述べ、最後に発達と学習に関する問題を講義していく。</p> <p>受講者の人数にもよるが、受講者に特定のテーマについて資料をまとめ、発表してもらう。その後、受講者全員で発表内容について討論しながら授業を進めていく予定でいる。発表は受講者全員にってもらう。発表内容に基づいて評価をおこなう予定でいる。</p>		<p>授業計画は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の領域 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学と近代の心理 3. 心理学のあゆみ②：現代心理学の誕生 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 発達①：発達の規定因 7. 発達②：乳幼児期の発達 8. 発達③：児童期・青年期の発達 9. 発達④：青年期以降の発達 10. 発達⑤：個の発達と学習 11. 学習理論①：条件づけ理論 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。参考文献は授業で紹介する。		授業への出席とレポート、授業への積極的参加度(発表など)により総合的に評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	心理学概説Ⅱ 心理学概説(通年)	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期(心理学概説Ⅱ)では、まず、人格理論について講義をする。つぎに、ストレスについてとりあげ、ストレスによる障害とその対応などを論じ、社会への人々の適応について深く考えていきたい。つぎに、心理学的視点から「現代社会の諸問題」についてさまざまなテーマを取り上げて受講者と共に考えていきたい。</p> <p>春学期と同じように、受講者に特定のテーマについて資料をまとめ、発表してもらう。その後、受講者全員で発表内容について討論しながら授業を進めていく予定でいる。発表は受講者全員にってもらう。発表内容に基づいて評価をおこなう予定でいる。</p>		<p>授業計画は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2. 人格理論①：類型論と特性論 3. 人格理論②：性格の構造と形成 4. 人格理論③：人格の測定 5. 人格理論④：人格の変容 6. 人格理論⑤：ストレスと性格 7. 現代社会と家族の心理 8. 現代社会と情報化の心理 9. 現代社会と日本人の精神構造① 10. 現代社会と日本人の精神構造② 11. 現代社会と自己形成 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。参考文献は授業で紹介する。		授業への出席とレポート、授業への積極的参加度(発表など)により総合的に評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	生涯学習概論	担当者	渋谷 英章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉になっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることが、生涯社会の基本的な課題であり、また生涯学習こそが現代社会の課題解決の鍵であるという視点から、生涯学習社会におけるフォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育のあり方とそれらの関係性について追究する。</p> <p>講義概要 まず、現代において「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における社会教育および学校教育のあり方を考える。その上で、日本の生涯学習の現状と課題を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習社会とは 2 生涯にわたる学習機会の多様性と類型化 3 ポール・ラングランの「生涯教育論」 4 ノンフォーマル教育 5 社会教育の定義と特質 6 ベダゴジーとアンドラゴジー 7 生涯教育から生涯学習へ 8 現代的課題と生涯学習(1) 9 現代的課題と生涯学習(2) 10 学社連携と学社融合(1) 11 学社連携と学社融合(2) 12 最終試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定しない。適宜プリントを配布。ウェブ上からの資料のダウンロードを指示することもある。		「生涯学習体験レポート」(必須)と「最終試験」(必須)をもとに評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	図書館概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館・情報センターとはどのような仕事をするところなのか、まず確認していく概論の科目である。地方公共団体が設置する公立図書館で働く専門職「司書」の業務内容とその使命、意義などを認識し、図書館が地域社会のなかで果たす役割を明確にしていく。さらに、IT革命といわれる情報社会のなかでの図書館の現在位置、将来展望を歴史的記憶をたどりながら、確認し、考えていく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> (1) 現代社会と図書館 (2) 図書館法規と行政 (3) 図書館の歴史的展開 (4) 図書館の理念 (5) 図書館員と司書 (6) 図書館の実務 (7) 地域社会と公共図書館 (8) 地域社会と学校図書館 (9) 地域社会と大学図書館 (10) 国立国会図書館、専門図書館など (11) 図書館ネットワーク (12) まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
塩見昇編『図書館概論』三訂版 日本図書館協会		出席点、レポート、試験	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	図書館サービス論 図書館サービス経営論(通年)	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何かや、図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館サービスの意義 2 来館者へのサービスー貸出、利用援助などー 3 資料提供の基礎 4 資料提供の展開ー著作権法と図書館ー 5 情報提供ーレファレンス・サービス(参考調査業務)ー 6 集会・文化活動、行事など 7 利用対象者別サービス 8 多様な利用者サービス ー図書館利用を阻害されている人々へのサービスー 9 利用者の交流の場としての図書館 10 図書館マーケティング活動 11 図書館サービスと図書館員・司書 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に指示する		出席点、レポート、試験	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	図書館経営論 図書館サービス経営論(通年)	担当者	常世田 良
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館の理念と最終的な利用者へのサービスの間に存在する、現実的諸課題をマネジメントの視点で解決する過程が図書館経営である。</p> <p>主として、公共図書館現場において、現実には発生している問題あるいは発生するであろうと思われる問題を検討することにより、図書館経営の実務を学ぶ。学生には、図書館を運営する経営者としての立場・視点で授業に臨んでもらう。グループ討議により毎回作成したレポートを元に最終レポートを作成すること</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の理念と機能 近代的図書館経営の歴史と法的位置づけ 2. 「政策」と図書館経営の実際: 市民・地域と図書館経営 3. 予算編成と図書館経営 4. 施設・設備の整備と図書館経営 5. 資料群の構築と図書館経営 6. 組織の育成と図書館経営 7. 自治体行財政と図書館の運営形態 8. 事務事業評価と図書館経営 9. 図書館ネットワーク・その他のネットワークと 図書館経営 10. 危機管理とプロモーション 11. 海外の図書館経営 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献</p> <p>『図書館のめざすもの』竹内さとる 日本図書館協会 1997 『未来をつくる図書館』菅谷明子 岩波書店 2003 『2005年の図書館像』 文部省 2000 『Lプラン21』 日本図書館協会 2001 『浦安図書館を支える人びと』 鈴木康之 坪井賢一 日本図書館協会 2004 『浦安図書館にできること』常世田良 勁草書房 2003</p>		<p>出席率 50% レポート 50%</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	情報サービス論 a 情報サービス論(通年)	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料(時間割表、掲示等)を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらにはCD-ROMやオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。</p> <p>【概要】春学期では、図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。より具体的には授業計画を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 受講者の確認・決定。年間予定、授業方法等について説明。 2 情報サービスの概要と実際(ビデオ鑑賞等) 3 レファレンスサービス 4 利用案内、レフェラルサービス 5 カレントアウェアネスサービス、検索サービス 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 発展的情報サービス 8 情報サービスで用いる情報源の類別 9 レファレンスコレクションの構築・評価 10 情報サービスにおけるコミュニケーション 11 最新の情報サービス(a) 12 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験(筆記試験またはレポート)。これに平常点を加味する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	情報サービス論 b 情報サービス論(通年)	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料(時間割表、掲示等)を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらにはCD-ROMやオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。</p> <p>【概要】秋学期においては主に、情報サービス(特にレファレンスサービス)の実践的能力を養成するために、参考図書等さまざまな情報源を用いた検索および回答の実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 実習についての説明 2 情報サービスで用いる情報源の類別 3 辞書 4 事典 5 便覧/図鑑 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 歴史/地理・地名の情報源 8 人物・団体の情報源 9 統計の情報源 10 文献検索の情報源 11 最新の情報サービス(b) 12 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験(筆記試験またはレポート)。これに平常点を加味する。	

2003年度以降 2002年度以前	情報検索演習	担当者	高柳敏子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>はじめに、情報検索システムの一連の流れの蓄積段階と検索段階を概観する。蓄積段階では、一次資料から二次資料への情報の加工の課程で、情報の入手、主題分析、検索式の作成、索引、データベースといった処理項目を、また検索段階では、情報要求、検索質問、検索式、ソースの利用、索引との照合、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。</p> <p>検索式の解説では、ブール演算子を用いた情報検索の表現方法を、またソースについてはその構成と目的を、さらに実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。</p> <p>実践的な情報検索能力を養うために、オンライン検索ではインターネット上の各種情報検索システムをできるだけ活用し、CD-ROMを使用したオフライン検索では練習用のJ-BISCによる実習を、また最近のマルチメディア辞典等も扱ってみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 情報検索とは 2 情報検索(1) 情報検索システムの構成 3 情報検索(2) 情報検索システムの検索段階と諸項目 4 情報検索(3) 情報検索の理論 5 データベース(1) 情報検索とデータベース 6 データベース(2) 情報検索システムの蓄積段階と諸項目 7 インターネットの情報検索(1) 検索エンジンと諸項目 8 インターネットの情報検索(2) 検索エンジンの利用 9 図書の検索(1) OPAC 10 図書の検索(2) JBISC 11 商用のデータベース利用(1) JOISのソースとその利用 12 商用のデータベース利用(2) JOIS演習, まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
渡辺、北、澤井、原田共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ6、樹村房、2004(改訂)		4~5回程度の実習レポートおよび出席を加味して評価する。	

2003年度以降 2002年度以前	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	情報検索演習	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料(時間割表, 掲示等)を参照し, 不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に, コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を, 解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではまず, 情報検索に関する基礎的な概念について解説する。そしてその知識を踏まえた上で, 実際の情報検索技術に慣れ, 習熟するために, WWWの検索エンジンやCD-ROMデータベース, 商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり, 受講者が今後の調査/研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション。情報検索の概要。 2 データベース 3 索引語, シソーラス 4 情報検索関連作業のプロセス 5 検索式 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 検索結果の評価 8 WWWの検索エンジン(1) 9 WWWの検索エンジン(2) 10 CD-ROM検索 11 商用オンラインデータベースの検索 12 授業のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験(筆記試験またはレポート)。これに平常点を加味する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（春） 02年度以前（春）	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（春） 02年度以前（春）	図書館資料論	担当者	山本 順一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>むかしはラブレター、いまはラブメール。日常生活のメッセージ伝達のために利用する手段に思いをめぐらしたときにも分かるとおり、情報を記録する媒体（メディア）は、時代とともに変わってきました。図書館情報学は、伝統的紙媒体資料からマルチメディア・デジタル・コンテンツに至るまで、これら多種多様な資料のそれぞれにつき、資料選択、受け入れから提供に通じるプロセスに関連して、その情報資料特性と取り扱い方を考えてきたのです。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ①はじめに：‘図書館資料論’とは。 ②印刷技術の歴史 ③雑誌・学術雑誌 ④図書Ⅰ：図書の変遷 ⑤図書Ⅱ：図書をめぐる諸概念 ⑥参考図書 ⑦灰色文献 ⑧書誌・索引 ⑨非印刷資料Ⅰ：伝統的資料 ⑩非印刷資料Ⅱ：デジタル・コンテンツ ⑪日本における情報資料の流通 ⑫図書館資料の保存 	
テキスト、参考文献		評価方法	
郡司良夫『図書館資料論』勉誠出版，2003（図書館情報学の基礎；7）		受講生の規模を考慮し、試験もしくはレポートにより、評価します。このとき、日常の受講態度を勘案します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	専門資料論	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 専門主題分野における情報資料について、その媒体、記述形式、機能などの特色に及びその活用法について学ぶ。</p> <p>(概要) 今年度は、伝統芸能、音楽などのパフォーマンス・アーツ、美術など芸術分野の専門資料を扱う。この分野の情報媒体の多様性、特徴をメディア発展史から概観し、また情報の電子化がこの分野に与える影響と出版流通や図書館界の対応、国際的動向について理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 芸術諸分野の媒体特性と情報 2) 絵画資料から情報を読み取る (1) 3) 絵画資料から情報を読み取る (2) 4) 美術情報のドキュメンテーション (1) 5) 美術情報のドキュメンテーション (2) 6) 音楽を記録する (1) 7) 音楽を記録する (2) 8) 音楽の情報媒体 (1) 9) 音楽の情報媒体 (2) 10) 芸術文化情報・資料の保存と活用 11) 芸術文化情報・資料保存と活用に関する動向 12) 芸術文化における情報専門職の可能性 <p>講義のほか、グループ研究を行なう。 授業では芸術分野の専門資料を中心として扱うが、受講者は、自分の専攻する分野における専門資料情報の媒体の機能や構造など特徴についてパ ラレルに考えを深めることが期待されている。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。 中森強「新訂 専門資料論」(東京書籍、2004)		小レポート、最終レポートのほか、グループ学習、授業への参加態度を総合評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	資料組織概説	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 図書館が扱う情報資料(図書、雑誌、視聴覚資料、電子資料及びインターネット情報資源)に関する情報を記録化し、利用者からのアクセスを確保するための理論と技術</p> <p>(概要) 図書館では、管轄する情報資料(図書、雑誌、視聴覚資料及びインターネット情報資源など)を一定の基準でデータを作成し、ラベル付けを行なっている。情報資料の組織化は利用者図書館とを結ぶ基本的かつ重要な仕事である。この授業では、利用者の情報資料の探し方を把握し、図書館が利用者のために作成する情報資料への手がかり、アクセス法について基本的な考え方と技術を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 情報へのアクセス 2. OPAC検索とインターネット検索 3. 図書館における情報資料組織化の概要 4. 記述目録(1) タイトル 5. 記述目録(2) 著作責任 6. 記述目録(3) 内容注記など 7. 主題目録(1) 主題からのアクセス 8. 主題目録(2) 分類 9. 主題目録(3) 件名 10. 情報資料組織の国際的動向 11. インターネット情報資源の組織化 12. Dublin Core Metadata Initiative <p>講義を主とし、グループ研究及び発表を交えて行なう。</p> <p>獨協大学図書館のOPAC、Webcat、WebcatPlus、新書マップ及びインターネット検索エンジンの活用 に習熟しておくこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		専門用語のテスト、小レポート及び最終レポートによる。授業への参加態度を加味する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	資料組織演習	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 情報資料の組織化の実際を学ぶ。</p> <p>(概要) 「資料組織概説」の受講者を対象とし、実習を通して、記述目録法、分類法、メタデータ記述法など、情報資料組織に関する基礎技術を習得を通して、資料組織の基本についての理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 目録データベースの構築と図書館 OPAC 3. 記述目録(1) 5. 記述目録(2) 6. 分類目録(1) 7. 分類目録(2) 8. 件名目録(1) 9. 件名目録(2) 10. DCMI(1) 11. DCMI(2) 12. Pathfinder <p>基本事項の解説(講義)を行い、実習(個人及びグループ)と成果発表を中心とする。</p> <p>なお、パソコン端末を使って授業を進める関係上、3限、4限とも受講者数は最大50名とする。受講希望者数が多い場合は、抽選を行なう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		出席、専門用語のテスト、実習成果、小レポート及び最終レポートによる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	児童サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公立図書館・学校図書館などにおける児童およびヤングアダルト向けサービスのうち、</p> <p>○資料に習熟すること</p> <p>○図書館プログラムの企画・実際・評価を通じての経営の理解を学ぶこと</p> <p>○子どもとヤングアダルト向け資料やサービスをめぐる多様な課題ー不読書、検閲・焚書、絶版、メディアの多様化ーなどを考えることを主たる講義内容とする。</p> <p>最低60冊以上の子どもの本、絵本などを読んで書評作成などが課題となる。したがって、できるだけ多くの子どもの本を読んでいくことになる。</p>		<p>(1)現状分析ー「子ども」の概念、図書館と「子ども」ー</p> <p>(2)児童・ヤングアダルト向けサービスの理念</p> <p>(3)児童・ヤングアダルト担当図書館員の役割</p> <p>(4)児童心理学と読書興味</p> <p>(5)資料選択と“どう伝えるか”ー絵本ー</p> <p>(6)資料選択と“どう伝えるか”ー伝承文学ー</p> <p>(7)資料選択と“どう伝えるか”ー児童書と児童文学ー</p> <p>(8)資料選択と“どう伝えるか”</p> <p>ー知識の本と調べ学習、図書館利用ー</p> <p>(9)資料選択と“どう伝えるか”</p> <p>ーポップ文化:映像と音楽、ディズニーの功罪など、YA(10代)への図書館サービスー</p> <p>(10)資料と図書館をめぐる課題</p> <p>ー検閲・焚書、絶版、不読書・過読書など:</p> <p>「子どものために」良い本なのか悪い本なのかー</p> <p>(11)図書館プログラム企画ー財政計画、人事管理ー</p> <p>(12)図書館プログラムの実際</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に指示する。また、課題図書リストも配布する。		出席点、課題(4)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	図書及び図書館史	担当者	山本 順一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>紀元前 4000 年代から続く図書館の歴史を、半期 10 回程度の授業の中で、社会経済的な構造変化、文化的変遷に対する理解を一方にもちながら、一緒に考えることにしたい。6000 年に及ぶ図書館の歴史を振り返り、デジタル・ネットワーク社会の現在透かしてみれば、混乱した図書と図書館サービスについての声高に叫ばれている議論の多くが枯れ尾花であることに気がつくであろう。</p>		<p>テキストの流れに沿って、図書館現象を歴史に即して考えることにしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館というもの、図書館というところ 2. 古代アレクサンドリア図書館 3. 中世の図書館 4. ルネッサンスと図書館 5. 図書館の近代 6. 図書生産の拡大 7. 公共図書館前史 8. 公共図書館の誕生 9. 図書館と検閲、イデオロギー 10.アーケード・プロジェクト 11. ハイブリッド・ライブラリー 12.図書館の将来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
マシュー・バトルズ著/白須英子訳『図書館の興亡：古代アレクサンドリアから現代まで』草思社、2004.		受講生の規模を考慮し、試験もしくはレポートにより、評価します。このとき、日常の受講態度を勘案します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	資料特論	担当者	千葉 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、多様な資料・情報が集積され利用される。公共図書館の実践に基づき、郷土資料・行政資料・視聴覚資料などの各資料の特質を論じ、その収集・利用等について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館資料の種類 2 新聞・雑誌 3 郷土資料 4 自作郷土資料 5 行政資料・観光パンフレット 6 視聴覚資料 7 自作視聴覚資料・絵画・写真 8 地図・電話帳・図録・楽譜 9 子どものための資料・大型紙芝居等 10 図書館利用に障害ある人のための資料・多文化サービス 11 県立図書館・国立国会図書館の資料 12 まとめ・小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。</p>		レポート・小テスト・出席状況	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	コミュニケーション論	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的： 「コミュニケーション」の概念を理解し、「コミュニケーション・リテラシー」の理解・応用へと発展させることが出来る。</p> <p>概要： 学習とコミュニケーション、日常生活における言語・非言語コミュニケーションの機能と役割などを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ：概要説明 2. コミュニケーションとは① 3. 同上 ② 4. 記号論入門① 5. 同上 ② 6. 言語活動の再検討① 7. 同上 ② 8. 非言語活動① 9. 同上 ② 10. メディアリテラシー① 11. 同上 ② 12. エピローグ：まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。詳細は開講時に示す。		<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数：20%（欠席3点減、遅刻1点減）； ・授業回数の1/3欠席は単位不認定。 ・レポート（40%） ・定期試験（40%） 	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	図書館特論	担当者	千葉 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、「図書館は成長する有機体である」(ランガナタン著『図書館学の五法則』)ともいわれる。公共図書館の実践に基づき、「土地の事情及び一般公衆の希望にそい」(図書館法第三条)の視点で、図書館における今日的な課題について取り上げ解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 日本の図書館概観 2 図書館と戦争責任の問題 3 職場の話し合いと仕事の改善 4 文庫活動 5 図書館の集会機能 6 本のあるひろばめぐり 7 図書館活動への住民参加 8 複合問題 9 委託問題 10 コミュニケーションを大切に 11 図書館評価 12 まとめ、小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。</p>		レポート・小テスト・出席状況	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	学校経営と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念・発展過程と課題・教育行政との関わり・学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的理解を目指す。また、教師として、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と担うべき役割とを明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にふれる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校図書館の理念と教育的意義 2 学校図書館の発展と課題 3 教育行政と学校図書館 4 学校図書館の経営(1)施設管理 一人、施設、資料、予算、評価等 5 学校図書館の経営(2) 6 学校図書館の経営(3) 7 学校図書館の経営(4) 8 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 9 学校図書館メディアの選択と管理、提供・活用(1) 10 学校図書館活動と教育活動 11 図書館の相互協力とネットワーク 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学校図書館論』補訂2版 (新編図書館学教育資料集成9) 塩見昇編 教育史料出版会 2003		出席点、小レポート、最終課題	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	学校図書館メディアの構成	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を目指しながら、司書教諭としての基本的な考えの構築を図る。高度情報社会における学習環境の変化にともなうメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種類と特性を説明し、そのメディアの選択と収集を目指し評価能力を養うことを目的とする。実習中心になるのでかならず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 高度情報社会における学校図書館メディアの意義 2 学校図書館メディア・センター資料の種類と特性 3 学校図書館メディア・センター資料の選択・収集 4 学校図書館メディア・センター資料の組織化 5 学校図書館メディアの分類(1) 6 学校図書館メディアの分類(2)演習 7 学校図書館メディアの件名目録(1) 8 学校図書館メディアの件名目録(2)演習 9 学校図書館メディアの目録(1) 10 学校図書館メディアの目録(2)演習 11 学校図書館メディアの目録(3)演習 12 学校図書館メディアの目録(3)演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>○『図書館資料の目録と分類 増訂第2版』日本図書館研究会編・発行 ○吉田憲一編『資料組織演習』日本図書館協会</p>		毎回の演習課題によって評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	学習指導と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学習指導における学校図書館のメディアの活用についての理解を図ることを目的とする。また、学習指導要領の改訂のなかで「総合的な学習」で、学校図書館の活用が明記された。児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業成立を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する講義内容とする。</p> <p>具体的には、教科指導のなかで、あるいは総合的な学習のなかで学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用してどのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちに調べてもらうため、教師自身が情報探索能力をみにつけておくことが求められるので、実習として情報探索活動をおこなってもらう。</p>		<p>1 教育課題と学校図書館</p> <p>2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択</p> <p>3 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成</p> <p>4 学習過程における学校図書館メディア活用の実際</p> <p>5 学習指導における学校図書館の利用(1) —図書館を活用する授業指導案・計画の策定—</p> <p>6 学習指導における学校図書館の利用(2)</p> <p>7 学習指導における学校図書館の利用(3)</p> <p>8 情報サービス(レファレンスサービス)等(1) —印刷媒体の参考ツールとインターネットを活用した 情報探索とその指導—</p> <p>9 情報サービス(レファレンスサービス)等(2)</p> <p>10 情報サービス(レファレンスサービス)等(3)</p> <p>11 教師への支援と働きかけ</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に指示する。		出席点、レポート(5回)、発表	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	読書と豊かな人間性	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>小・中・高校の図書館を舞台として、児童・生徒に〈読むことは楽しい〉ということを実体験してもらい、〈読む〉ことによって、多様な生き方やものの考え方を知り、自分自身を考え、自分自身の生活を選び取っていく力を身につけてもらう援助活動をどうするのかを考える。学校司書や司書教諭として実践していく力をつけるために、多くの読書資料にふれる。児童・生徒に読書をすすめ、楽しんでもらうためには教師自身がたくさん子どもの本を読んでいることが肝要である。したがって、この科目では多くの子どもの本を読んでもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの〈読む〉ということを考える 2 子どもの発達心理と知的好奇心について知る 3 児童・生徒向け読書資料を知る(1)絵本 4 児童・生徒向け読書資料を知る(2)伝承文学 5 児童・生徒向け読書資料を知る(3)児童・YA文学 6 児童・生徒向け読書資料を知る(4)文学以外の読書資料 7 子どもの本を自分で読む・批評する 8 子どもに〈読む〉楽しさを伝える(1) 9 子どもに〈読む〉楽しさを伝える(2) 10 家庭・地域・公立図書館などとの連携 11 子どもの読書と法政策 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に指示する		出席点、小レポート	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	情報メディアの活用 情報メディアの活用	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料(時間割表、掲示等)を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】学校教育においてその重要性が再認識され新たな役割を担うことが期待され始めた学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。</p> <p>【概要】まず、現在までの情報メディアの発達と変化を検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。また、各種情報メディアの特性について概観した後、学校教育の目的や状況に応じてどのようなメディアを選択すべきかも考察する。次に、視聴覚メディア、インターネット、データベース、教育用ソフトウェアといったツールごとに、その活用方法について学校教育との関わりを見ながら具体的に論じていく。そして最後に、学校図書館メディアと著作権の関わりを講じ、また、講義全体のまとめを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明。 2 高度情報社会と学校教育。情報メディアの特性と選択。 3 学校教育における視聴覚メディアとコンピュータの活用。 4 インターネットによる情報検索と発信(1)。 5 インターネットによる情報検索と発信(2)。 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 オフラインデータベースと情報検索(1)。 8 オフラインデータベースと情報検索(2)。 9 教育用ソフトウェアの活用。 10 学校での取り扱いに注意すべき情報。 11 学校図書館メディアと著作権。 12 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験(筆記試験またはレポート)。これに平常点を加味する。	